

（2）理学療法学科

専門科目（理学療法学科）

科目名	頁	科目名	頁
理学療法学概論	193	高齢期理学療法学	214
運動学Ⅰ	194	高齢期理学療法学特別講義	215
運動学Ⅱ	195	内科系理学療法学Ⅰ	216
運動学演習	196	内科系理学療法学Ⅱ	217
運動療法学	197	内科系理学療法学特別講義	218
理学療法管理運営論	198	理学療法技術学	219
理学療法検査技術学Ⅰ	199	物理療法学	220
理学療法検査技術学Ⅱ	200	義肢装具学	222
理学療法検査技術学演習	201	生活支援系理学療法学Ⅰ	223
理学療法評価学Ⅰ	202	生活支援系理学療法学Ⅱ	224
理学療法評価学Ⅱ	203	地域リハビリテーション学	225
生体計測学演習	204	地域理学療法学	226
筋骨格系理学療法学Ⅰ	205	理学療法研究法	227
筋骨格系理学療法学Ⅱ	206	理学療法研究法演習	228
筋骨格系理学療法学特別講義	207	理学療法卒業研究	229
神経系理学療法学Ⅰ	208	臨床実習Ⅰ	230
神経系理学療法学Ⅱ	209	臨床特論	231
神経系理学療法学特別講義	210	臨床実習Ⅱ	232
小児理学療法学Ⅰ	211	臨床実習Ⅲ	233
小児理学療法学Ⅱ	212	臨床実習Ⅳ	234
小児理学療法学特別講義	213	臨床実習Ⅴ	235

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法学概論		理学療法学科 (専門科目)	理学療法士教員	必修	1	前期	2	非該当	否
授業概要	理学療法士教員が分担して、下記のテーマで授業を行う。								
一般目標	理学療法の歴史や法的根拠、学問体系および業務内容、社会的役割などを認識し、理学療法士となる決意を明確にする。								
到達目標	理学療法に必要な知識と資質について説明できる。 理学療法学をいかに学べばよいか説明できる。 理学療法士の社会的役割を知る。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	成績評価は、各教員の担当時間数に応じた配点で、筆記試験またはレポート課題により行う。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外 学習など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 4	理学療法とリハビリテーション	講義		加藤				
2	5. 4. 14 (金) 5	理学療法士のキャリア形成	将来のキャリア形成について紹介し、討論する。		加藤				
3	5. 4. 21 (金) 4	理学療法士養成校で学ぶこと	講義		鈴木(克)				
4	5. 4. 21 (金) 5	理学療法演習 (基本動作観察)	講義と演習		鈴木(克)				
5	5. 4. 27 (木) 3	理学療法の対象と理学療法士の職域	講義		丹野				
6	5. 5. 11 (木) 3	理学療法技術 (関節可動域練習) 体験	講義と演習		赤塚				
7	5. 5. 18 (木) 3	障がいのとらえ方と評価の流れ	講義と討論		鈴木(栄)				
8	5. 5. 25 (木) 3	理学療法と研究(理学療法を学ぶために)	講義		南澤				
9	5. 6. 1 (木) 3	理学療法を学ぶための図書館活用方法	情報処理教室で実習する。		図書館 担任				
10	5. 6. 8 (木) 3	理学療法に関連する法規と保険制度	講義 (演習)		渡部				
11	5. 6. 15 (木) 3	理学療法の組織と倫理	講義		室伏				
12	5. 6. 22 (木) 3	医療専門職と接遇	課題討論		永瀬				
13	5. 6. 29 (木) 3	施設見学における実習方法	オリエンテーションと施設見学での目標設定		鈴木 (栄)				
14	G1. 5. 7. 6 (木) 3-4 G2. 5. 7. 13 (木) 3-4 G3. 5. 7. 20 (木) 3-4 G4. 5. 7. 27 (木) 3-4	施設見学 施設見学報告会	病院の理学療法士に帯同し臨床場面を見学する。 見学内容を報告・発表し、共有する。	レポ ー ト 作成	永瀬 鈴木 (栄) 工藤				
15									
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：◎概説理学療法. 文光堂 ◎シンプル理学療法学シリーズ「理学療法入門テキスト」南江堂							
履 修 上 の 注 意		14-15 回目は 4 グループ(G1～G4)に分かれ、G1：7 月 6 日 3・4 限目、G2：7 月 13 日 3・4 限目、G3：7 月 20 日 3・4 限目、G4:7 月 27 日 3・4 限目、のいずれかの授業となります。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		将来の理学療法を担う諸君が理学療法と向かい合う第一歩であり、理学療法とは何かという問いに対する自身の答えを探す入り口です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		鈴木克彦：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学Ⅰ	理学・作業療法学科 (専門科目)	教 授・佐藤 寿晃 教 授・加藤 浩 教 授・鈴木 克彦 准教授・仁藤 充洋 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	2	非該当	否
授業概要	人体にある様々な関節の構造やその機能・メカニズムについて教授する。 身体の基本的な動作を運動学・運動学的に解説する。							
一般目標	骨・関節・筋の形態、機能の面から、身体の運動の仕組みを理解できる。							
到達目標	上肢・下肢・体幹の関節運動およびその仕組みを説明できる。 主要な筋の起始、停止、走行、作用、神経支配を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準	成績評価は定期試験で判断します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 25 (月) 5	運動学概説	身体運動学の捉え方と 時間・空間的表現				加藤	
2	5. 9. 27 (水) 5	運動器の構造と機能	関節分類、骨格筋構造、 運動方向、筋収縮				佐藤 仁藤	
3	5. 10. 2 (月) 5	肩複合体の運動学Ⅰ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
4	5. 10. 4 (水) 5	肩複合体の運動学Ⅱ	肩関節複合体の構造と 運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
5	5. 10. 11 (水) 5	肘関節・前腕の運動学	肘および前腕の構造と 運動・筋				佐藤 仁藤	
6	5. 10. 16 (月) 5	手関節・手指の運動学Ⅰ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅰ				佐藤 仁藤	
7	5. 10. 18 (水) 5	手関節・手指の運動学Ⅱ	手関節および手指の構 造と運動・筋Ⅱ				佐藤 仁藤	
8	5. 10. 23 (月) 5	股関節の運動学Ⅰ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅰ				室伏	
9	5. 10. 25 (水) 5	股関節の運動学Ⅱ	股関節の構造と運動・ 筋Ⅱ				室伏	
10	5. 10. 30 (月) 5	膝関節の運動学	膝関節の構造と運動・ 筋				室伏	
11	5. 11. 1 (水) 5	足関節・足部の運動学	足関節・足部の構造と 運動・筋				鈴木	
12	5. 11. 6 (月) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅰ	脊柱の構造・運動				鈴木	
13	5. 11. 8 (水) 5	脊柱・体幹の運動学Ⅱ	胸郭の構造と換気の運 動学				鈴木	
14	5. 11. 13 (月) 5	姿勢と動作の捉え方	姿勢と動作の運動学的 表現				加藤	
15	5. 11. 15 (水) 5	歩行	歩行周期の分類				加藤	
教科書	教科書：エッセンシャル・キネシオロジー（第3版）．南江堂，2020 参考書：プロメテウス解剖学アトラス運動器系（第3版）．医学書院．2017 基礎運動学（第6版）．医歯薬出版，2020 必要に応じてプリントを配布します。							
履修上の注意								
学生への メッセージ	理学療法、作業療法の基礎となる科目の一つです。筋の起始、停止、走行、作用、神経支配は 正確にすばやく答えることができるよう地道に努力しましょう。							
e-mail・研究室 (連絡先)	佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 仁藤：研究室 26 mnito@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
運動学Ⅱ		理学・作業療学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 教 授・佐藤 寿晃 准教授・鈴木 由美	必修	2	前期	2	非該当	否			
授業概要		・運動学Ⅰで学んだ身体機能解剖の知識を利用して、運動や動作の具体的な分析方法を教授する。 ・基本動作として寝返りや起き上がり等を、日常生活活動として更衣動作や食事動作等を分析する。グループワークによる直視および動作観察・分析を中心に講義・演習を展開する。										
一般目標		・身体機能解剖学と生体力学の知識を使用して、基本的な動作・活動を運動学的に記述し、考察する方法を理解する。										
到達目標		・運動や動作を観察し、運動学的用語を用いて表現することができる。 ・基本的な起居動作や身の回り動作の運動パターンと各関節の可動域、筋活動、重心の動きを関連付けて説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績は定期試験で判断します。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当				
1	5. 4. 14 (金) 1	姿勢と動作の捉え方	重力と身体重心の捉え方				解剖学、生理学、運動学をしっかりと復習しておくこと	加藤				
2	5. 4. 21 (金) 1		床反力の捉え方									
3	5. 4. 28 (金) 1		筋力（関節モーメント）の捉え方									
4	5. 5. 12 (金) 1	歩行動作分析（運動学分析）	正常歩行時における身体重心、関節可動域、筋活動の特徴									
5	5. 5. 19 (金) 1	歩行動作分析(運動力学分析)	正常歩行時における床反力、関節モーメント、関節パワーの特徴									
6	5. 5. 26 (金) 1	姿勢制御	逆応答現象、counter-weight、counter-activity、counter movement、tentacle activity									
7	5. 6. 2 (金) 1	起居動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
8	5. 6. 16 (金) 1	歩行動作の観察・分析	実習（グループワーク）									
9	5. 6. 23 (金) 1	肩複合体	解剖学、生理学の知識を用いて身体運動の観察や分析に使用する具体的方法を講義、ビデオを用いて授業を展開します。					佐藤 鈴木				
10	5. 6. 30 (金) 1	肘と前腕										
11	5. 7. 7 (金) 1	手										
12	5. 7. 14 (金) 1	更衣、食事動作の観察・分析	更衣、食事動作の観察・分析のポイント									
13	5. 7. 21 (金) 1		実習（グループワーク）									
14	5. 7. 25 (火) 1											
15	5. 7. 28 (金) 1		観察・分析結果の発表									
教 科 参 考 図 書		教科書： エッセンシャル・キネシオロジー Paul Jackson Mansfield 著、弓岡光徳 訳（南江堂） 参考書： 筋骨格系のキネシオロジー Neumann、D. A 著 嶋田智明 訳（医歯薬出版） 必要に応じてプリントを配布します。										
履 修 上 の 注 意		実習（グループワーク）の授業の時は、動きやすく、動作観察が可能な服装で参加すること。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		動作の観察・分析は障がい構造を把握する上で、欠かすことのできない重要な評価手段です。 普段の生活においても運動学的に観察・分析する思考パターンを身につけて下さい。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 佐藤：研究室 37 tsato@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 30 yusuzuki@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動学演習	理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	1	非該当	否
授業概要	運動学に基づく定量的な評価方法を少人数のグループ実習を通して教授する。健常者を対象として、運動力学、筋電図学を加えて運動を解析する。具体的な実施方法を示すとともに、結果の解釈や評価方法の意義と限界についても解説する。							
一般目標	臨床に用いられている定量的な評価手法を理解し、結果に対して考察することができる。							
到達目標	1) 姿勢の基本的な評価と機器を用いた筋力・バランス機能の評価方法を説明し、実施することができる。 2) 歩行の速度因子の評価方法を説明し、実施することができる。 3) 筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な評価方法を説明することができる。 4) データの基本的な解析、作図を、表計算ソフトを用いて実施することができる。 5) 測定結果をまとめ、考察を加えて発表することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	成績評価はプレゼンテーション(40%)と課題レポート(60%)で行います。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など	担当	
1	5. 9. 25 (月) 1	定量的評価方法とプレゼンテーション	臨床や研究に用いられている運動学的、運動力学的評価方法を紹介し、レポート、レジュメ、スライド作成など、プレゼンテーション技術のポイントについて説明します。				加藤	
2	5. 9. 25 (月) 2	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (1)	グループ実習Ⅰ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 1) 姿勢の評価、身体重心位置の推定 2) 筋力の定量的評価法 3) 筋電図による動作分析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	加藤 赤塚 永瀬	
3	5. 9. 25 (月) 3							
4	5. 10. 2 (月) 3							
5	5. 10. 2 (月) 4	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (2)						
6	5. 10. 16 (月) 3	姿勢・筋力・筋活動の基本的評価 (3)	グループ実習Ⅱ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 4) 三次元、床反力による動作解析 5) バランス評価（重心動揺計） 6) 速度因子の測定と解析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	南澤 室伏 鈴木(栄)	
7	5. 10. 16 (月) 4							
8	5. 10. 23 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (1)	グループ実習Ⅱ：グループに分かれて以下の項目を実習する。 4) 三次元、床反力による動作解析 5) バランス評価（重心動揺計） 6) 速度因子の測定と解析			各グループで測定結果をまとめ、レポート、レジュメを作成する。	南澤 室伏 鈴木(栄)	
9	5. 10. 23 (月) 4	動作やバランスの定量的評価 (2)						
10	5. 10. 30 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (3)						
11	5. 10. 30 (月) 4							
12	5. 11. 6 (月) 3	動作やバランスの定量的評価 (3)	測定結果の発表を行い、教員を交えて討議します。				全員	
13	5. 11. 6 (月) 4							
14	5. 11. 13 (月) 3	課題実習発表会						
15	5. 11. 13 (月) 4							
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：弓岡光徳，他（監訳）：エッセンシャル・キネシオロジー（南江堂）							
履 修 上 の 注 意	3 グループに分かれて実習を行うので、各実習課題に合った服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	臨床によく用いられている定量的な評価方法を学ぶとともに運動学への理解を深めて下さい。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選択 の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
運動療法学	理学療法学科 (専門科目)	講師・永瀬 外希子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	理学療法における治療手段の主となる運動療法に関する講義の一つです。本講義では基本的な運動療法の基礎と実践に関する講義と実技を行います。							
一般目標	・運動療法の基礎を理解し説明できること ・基本的な運動療法の実践方法を修得すること							
到達目標	運動療法の基礎知識、基本的運動療法手段およびその適応と禁忌などを説明できる。 基本的運動療法手技を選択し、適切に実施できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実技試験(50%)：筋力増強運動、ROM 運動、ストレッチングを適切に実施できるか評価する。 筆記試験(50%)：運動療法の基礎知識、基本的運動療法手段の適応と禁忌などを理解しているか評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 9. 29 (金) 3	運動療法総論	運動療法の適応と禁忌			・教科書の各章最後にある「まとめ」の復習が必要です。 ・配布資料の内容に関する自主練習が必要です。		永瀬
2	5. 10. 6 (金) 3	筋機能と運動療法	・筋力増強の理論などに関する講義 ・筋力増強運動の実技					
3	5. 10. 6 (金) 4	筋機能と運動療法						
4	5. 10. 13 (金) 3	関節可動性と運動療法	・関節可動性とその制限因子 ・関節可動性障害に対する運動療法の講義と実技					
5	5. 10. 13 (金) 4	関節可動性と運動療法						
6	5. 10. 16 (月) 1	ストレッチング	・ストレッチングの適応、注意事項に関する講義 ・ストレッチングの実技					
7	5. 10. 16 (月) 2	ストレッチング						
8	5. 10. 27 (金) 3	バランス・協調性	・バランスや協調運動障害に対する講義と実技 ・運動時の呼吸・循環・代謝の特徴					
9	5. 10. 27 (金) 4	呼吸・循環・代謝						
10	5. 11. 10 (金) 3	中枢・末梢神経機能	・中枢・末梢神経機能の運動療法の基礎 ・めまいに対する運動療法 ・フレイルに対する評価と実技					
11	5. 11. 10 (金) 4	前庭機能・加齢と運動療法						
12	5. 11. 17 (金) 3	基本動作と運動療法	・基本動作の基礎や動作観察のポイントなどに関する講義 ・起居、起立動作練習の実技 ・運動学習の基本					
13	5. 11. 17 (金) 4	運動学習						
14	5. 11. 24 (金) 3	運動療法技術の確認	筋力増強運動、ROM 運動、ストレッチングに関する実技の習得レベルの確認			試験中に指導を要した項目の再学習が必要です。		
15	5. 11. 24 (金) 4							
教 参 考 図 書	教 科 書：理学療法学テキスト「運動療法学」(MEDICALVIEW、対馬栄輝編集) 参考図書：最新 運動療法大全：「基礎と実践」&“エビデンス情報”(ガイアブックス) 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版(文光堂、市橋則明編集)							
履 修 上 の 注 意	・運動のしやすい服装を身につけて臨んでください。 ・配付資料を整理するためのファイルを用意することが望ましいです。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	運動療法の原理を理解するためには解剖学・生理学・運動学の知識が重要です。 これから学習するすべての疾患別理学療法学のベースとなる授業です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	永瀬外希子：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法管理運営論		理学療法学科 (専門科目)	非常勤講師・渡邊 好孝 教授・鈴木 克彦 講師・赤塚 清矢 講師・永瀬外希子 講師・室伏 祐介 教 師・鈴木栄三郎 教 師・工藤 大輔	必修	4	後期	2	非該当	否
授業概要		理学療法士として社会の一員として働く上で必要な管理運営（マネジメント）の考え方を指導する。学習者の人生に役立つ「学びとは」、価値創造、目的志向、目標の設定等を論じ「仕事とは何か」指導する。仕事とは何かを論じ、学生自身の今後の人生に崇高な目的・目標を掲げられるよう指導する。DX 時代（IoT、AI 等）の進化と社会変化に対応し、役割・立場を理解して社会課題の解決に向けた行動できるように指導する。 理学療法士として過ごす人生での幅広いキャリア形成を学ぶ。							
一般目標		理学療法士の仕事を通して、経営資源・社会との調和・社員重視・顧客本位・独自能力を高め続けるために如何にするか、講義・演習を通して理学療法士の経営資源を鑑みて自己表現できることを目的とする。「健康」で 70 歳まで働き、人生 100 年をスマートに生きるために何をすべきか、近未来の共生社会を広い視野で創造し実践する心と力を養う。人間の欲求と願望、確認・承認・教育を理解する。							
到達目標		認知領域 働く思考手順を理解し、仕事・業務・作業の組み立てができるようになる。 情意領域 他職種の働きを VTR にて観賞し、そこからの学びを通してディスカッションし“仕事の原点”（仕事の志、到達したい夢）を理解する。自らの仕事の大原点を確認し他者に表現できるようになる。 精神運動領域 働くことから創出される価値をセルフアセスメントし客観的に組織と自身の仕事を評価できるようになる。 ＊生きることの意味、健康の意味、予防の意味を理解し未来向き志向を養う。 ＊経営資源である「人」の管理の、目的・目標を理解し論じられるようになる。 ＊「深い人間理解とそれに基づく愛」によって、人生・仕事・愛・幸せを論じられるようになる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		課題レポート：100%							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1 ～ 9	5.10.10（火）3-5 5.10.17（火）3-5 5.10.24（火）3-5	・管理運営（マネジメント）で重視する考え方。 ・予防（管理）は何のために必要なのかを理解する ・提供価値・顧客認識・競争認識・経営資源認識。 ・仕事のリーダーシップと社会的責任。人材育成。 ・顧客市場の理解と経営資源の理解 ・Vision、Mission の考え方 ・リスク ・PDCA OODA PREP ・報告・連絡・相談	・理学療法士が目指す思想的な姿に照らして、今後予想される環境変化からどのように現在および将来に向けた問題と課題に取り組むかを知る。 ・経営（未来創造）プランニングの立案の考え方を学ぶ。 ・人を育てる、人材・人財育成 共創社会 ・マーケティング 1.0-4.0 を学び、必要・望む“モノ・コト”を知る。 ・目的・目標・戦略・戦術を知る。 ・経営資源管理の意味を知る。 ・リスクの考え方を学ぶ。PDCA OODA ・組織プロフィールを知る。 ・経営品質の向上の意味を知る。 ・知識・技術以上に身に付けなければならない社会人マナー ・人の習慣。行動の起点。 ・PDCA OODA			推薦図書 ・ドラッカーに関する図書 ・哲学と宗教全史 出口治明 ・「原因」と「結果」の法則（ジェームス・アレン） ・七つの習慣（ステイブ・R・コヴィー） ・「すぐ決まる組織」のつくり方 OODA マネジメント 入江仁之 ・ブルーオーシャン戦略 関連書籍 ・コトラーのマーケティング戦略 4.0		渡邊	
10	5.10.30（月）3	・理学療法の倫理と教育	コンプライアンス・法令違反・ハラスメント・医療広告ガイドライン・利害衝突・コンフリクトマネジメント					鈴木（克）	
11	5.11.14（火）3		理学療法教育の歴史と内容					室伏	
12	5.11. 7（火）3		理学療法士国家試験の出題基準					永瀬	
13	5. 9.26（火）3		診療参加型臨床実習・臨床実習前後の評価					工藤	
14	5.10. 3（火）3		臨床教育の方法・生涯学習制度					赤塚	
15	5.11.28（火）3							鈴木（栄）	
教 科 書 参 考 図 書		指定なし。 講義・演習に必要な資料は配布する。							
履 修 上 の 注 意		講義や演習での問いかけに対して、自らの考えや感じることを積極的に対話していただきたい。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		「仕事」「マネジメント」「習慣」「政治や経済と理学療法士の関り」などの意味を理解され、皆さんの今後の人生に役立てて欲しい。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		赤塚清矢:研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 渡邊好孝:松田病院 w.yoshitaka1006@gmail.com							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法検査技術学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要		理学療法の評価および治療の基礎である機能解剖学と触診技術を、実技をとおして教授する。							
一般目標		運動器の機能解剖学的知識を習得し、その触診と形態測定を正確に実施できるようになる。							
到達目標		理学療法に必要な、主要な骨・関節・筋・神経の解剖学について説明できる。 理学療法に必要な、主要な骨・関節・筋・神経を触診できる。 四肢長および周径測定の目的を説明し、計測できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実技試験：主要な骨・関節・筋・神経の触診および形態計測の技術の習得度を評価する（60％） 筆記試験：触診と形態計測の基礎となる機能解剖学の知識の習得度を評価する。（40％）							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5.11.22（水）5	総論・肩関節	各部位について、下記の事項ができるように実技指導を行う。 ○機能解剖学的特徴を説明できる ○骨・関節・靱帯を触診できる ○筋・腱を触診できる ○表在の神経と血管を触診できる ○代表的な特殊テストを実施できる			解剖学の予習・復習が必要		鈴木	
2	5.11.27（月）3	肩関節							
3	5.11.27（月）4	上腕・肘関節							
4	5.11.29（水）3	前腕							
5	5.11.29（水）4	手関節・手指							
6	5.12. 6（水）5	頸部							
7	5.12.13（水）5	体幹						室伏	
8	5.12.14（木）1	骨盤・股関節							
9	5.12.14（木）2	大腿部							
10	5.12.21（木）1	膝関節							
11	5.12.21（木）2	下腿部							
12	6. 1. 4（木）1	足関節・足部							
13	6. 1. 4（木）2	身体計測①（総論）	教科書および参考資料を用いて、四肢・体幹の肢長および周径について学習する			四肢・体幹の主要な骨マーカー箇所および触診技術を復習しておくこと		永瀬	
14	6. 1.11（木）1	身体計測②（肢長）	四肢・体幹の肢長を計測する						
15	6. 1.11（木）2	身体計測③（周径）	周径を計測する						
教 参 考 図 書		教科書：奈良勲 監訳：触診解剖学アトラス（医学書院） 松澤正 著：理学療法評価学（金原出版株式会社） 参考書：林典雄 著：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 下肢（メジカルビュー社）							
履 修 上 の 注 意		実技ができる服装で出席すること。 実技実習における注意事項（授業で説明する）を遵守すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		運動器の触診と形態測定の技術は理学療法の基本中の基本です。知識学習のみならず、実際に行えることが目標です。予習・復習は必須です。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴 木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永 瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室 伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法検査技術学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 教 授・鈴木 克彦 講 師・室伏 祐介 講 師・永瀬外希子 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	前期	1	非該当	否
授業概要	理学療法評価に欠かせない、関節可動域（ROM）測定、徒手筋力検査法（MMT）、筋長検査の意義や手技を学び習得する。								
一般目標	・ 健康者を対象にして、ROM 測定、筋長検査を実施することができる。 ・ ROM 測定結果から、問題点やその原因を考察することができる。 ・ MMT に必要なオリエンテーション、適切な肢位選択、正確な実施技術、適切な評価判定を実施できる。								
到達目標	・ ROM 測定を的確に実施することができる。 ・ MMT の適切なオリエンテーションと迅速かつ正確な検査を実施することができる。 ・ 二関節筋の筋長検査を的確に実施し、判定することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験：50% 実技試験：50%								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 4. 12（水）3	ROM①（総論）	関節可動域表示ならびに測定法の講義と実技を行う。			解剖学の復習をすること。		赤塚 鈴木 (栄)	
2	5. 4. 19（水）3	ROM②上肢 (肩関節, 肘関節, 前腕, 手関節, 手指)							
3	5. 4. 19（水）4								
4	5. 4. 26（水）3								
5	5. 4. 26（水）4	ROM③下肢・体幹 (股関節, 膝関節, 足関節, 頸部, 体幹)							
6	5. 5. 10（水）3								
7	5. 5. 10（水）4								
8	5. 5. 17（水）3	・ 総論 ・ 股関節 ・ 膝関節 ・ 足関節, 足部 ・ 体幹	・ MMT オリエンテーション方法 ・ 体位の選択と具体的方法 ・ 適切な固定方法と代償動作 ・ テスト結果の正確な段階づけ ・ 検査方法が困難な場合の別法			実技練習を反復すること。		室伏	
9	5. 5. 17（水）4								
10	5. 5. 24（水）3								
11	5. 5. 24（水）4								
12	5. 5. 31（水）3							肩関節・肩甲帯	鈴木 (克)
13	5. 5. 31（水）4							肘関節・前腕・手関節	
14	5. 6. 7（水）3							手指・頸部	
15	5. 6. 7（水）4	筋長検査	下肢の短縮筋の判定方法に関する講義と下肢の二関節筋の筋長検査法を実習する。			二関節筋の起始・停止と作用を復習しておくこと。		永瀬	
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：「ROM 測定法 臨床での測定精度を高める！」（メジカルビュー社，齋藤慶一郎著） 「新・徒手筋力検査法」（協同医書出版，津山直一・中村耕三訳） 「理学療法評価学」（金原出版株式会社，松澤正著） 参考図書：「標準理学療法学 理学療法評価学」（医学書院，内山靖編集）							
履 修 上 の 注 意		・ ROM：実技が可能な服装で参加すること。 ・ MMT・筋長検査：筋の触診と作用を復習し，実技ができる服装で参加すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		ROM 測定，MMT，筋長検査は，理学療法士が用いる重要な検査の一つです。 知識学習のみならず，練習を繰り返して行い，技能を高める必要があります。							
e-mail・研究室 (連絡先)		赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木（克）：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushia@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木（栄）：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
理学療法検査技術学演習		理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	1	非該当	否			
授業概要	臨床的狀況で適切に検査を実施できるようになるために、基本的な理学療法検査技術を用いた臨床的な展開方法を教授する。											
一般目標	臨床的狀況において、基本的な理学療法検査技術を適切に実施することができる。											
到達目標	・対象者の安全に配慮ができ、適切な態度や言葉遣いで接することができる。 ・臨床的な状況に応じて、適切な検査項目を選択し、その検査を適切に実施することができる。											
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実技演習の習得度を評価する (100%)											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習等		担当					
1	5. 9. 27 (水) 3	理学療法検査技術の臨床的展開方法と ROM-T の実際	オリエンテーション 基本的な理学療法検査技術の臨床的な展開方法と ROM-T の実施方法について講義・演習する。				赤塚					
2	5. 9. 27 (水) 4	医療面接・バイタルサイン計測の実際	医療面接における基本的な態度と臨床におけるバイタルサイン計測の実施方法を講義・演習する。				鈴木 (栄)					
3	5. 10. 4 (水) 3	MMT の実際	臨床的狀況における MMT の実施方法について講義・演習する。				室伏					
4	5. 10. 4 (水) 4	肢長、周計の実際	臨床的狀況における肢長、周計の実施方法について講義・演習する。				永瀬					
5	5. 10. 11 (水) 3	実技演習①	臨床的狀況に応じて、バイタルサイン計測、ROM-T、MMT、肢長と周計の計測が適切に実施できる技術を習得するための演習を行う。		技術の習得度を高めるために自主的な学習・練習を行うことが望ましい。		赤塚 永瀬 室伏 鈴木 (栄)					
6	5. 10. 11 (水) 4											
7	5. 10. 18 (水) 3	実技演習②										
8	5. 10. 18 (水) 4											
9	5. 10. 25 (水) 3	実技演習③										
10	5. 10. 25 (水) 4											
11	5. 11. 1 (水) 3	実技演習④										
12	5. 11. 1 (水) 4											
13	5. 11. 8 (水) 3	理学療法検査技術の確認	実技演習の習得度を評価する。		習得度が不十分な技術についての再学習が望まれる。							
14	5. 11. 8 (水) 4											
15	5. 11. 8 (水) 5											
教 科 書 参 考 図 書	参考図書：理学療法評価学 (金原出版株式会社、松澤正著) 新・徒手筋力検査法 (協同医書出版、津山直一・中村耕三訳) ROM 測定法 臨床での測定精度を高める！ (メジカルビュー社、齋藤慶一郎著)											
履 修 上 の 注 意	理学療法検査技術学Ⅰ・Ⅱの内容を復習して授業に臨むこと。 実技演習が中心ですので実技が可能な服装で参加して下さい。											
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	臨床場면을想定した機会を活かし、適度な緊張感をもって演習に取り組む必要があります。											
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏 祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp											

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法評価学Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔	必修	2	前期	2	非該当	否
授業概要	中枢神経系に関連する各種検査測定について学習する。							
一般目標	１．各種検査の意義を説明できる。 ２．各種検査を実施できる。							
到達目標	各種検査測定方法を説明および実施できる。また、それらの結果を適切に記録できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験によって評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 10 (月) 4	神経学的検査の概論	神経学的検査の概要、目的、および手順について学習する					南澤
2	5. 4. 17 (月) 4	バイタルサイン	リスク管理として基本的なバイタルサインについて学習する					鈴木 (栄)
3	5. 4. 24 (月) 4	反射の診かた	反射（腱反射、病的反射、表在反射）の機序と検査の意義、目的、手順を学習し、疾患の病態を理解する					南澤
4	5. 5. 1 (月) 4	感覚の診かた	表在感覚 深部感覚 複合感覚					永瀬
5	5. 5. 8 (月) 4	脳神経検査	脳神経検査の内容、手順および演習					鈴木 (栄)
6	5. 5. 15 (月) 4	協調性評価	四肢体幹の運動失調検査					赤塚
7	5. 5. 22 (月) 4	錐体外路疾患の診かた	錐体路徴候パーキンソン病、パーキンソン症候群を伴う関連疾患、不随意運動					南澤
8	5. 5. 29 (月) 4	疼痛評価						南澤
9	5. 6. 5 (月) 4	筋緊張検査						南澤
10	5. 6. 12 (月) 4	片麻痺機能検査	Brunnstrom 法					永瀬
11	5. 6. 19 (月) 4		上田式 12 段階片麻痺機能検査					
12	5. 6. 26 (月) 4	バランス評価	バランス障害について理解し、その検査法および評価法を学習する					工藤
13	5. 7. 3 (月) 4	高次脳機能検査	講義と演習により、理学療法士が知っておくべき失語、失行、失認および認知機能の検査の意義、目的、方法を学ぶ。					南澤
14	5. 7. 10 (月) 4	包括的演習						南澤
15	5. 7. 24 (月) 4							
教科書 参考図書	教科書：病気がみえる 脳・神経 vol. 7. メディックメディア 理学療法評価学（改訂第 5 版）松澤正 江口勝彦（著） 金原出版 参考図書：ベッドサイドの神経の診かた（改訂 17 版） 田崎義昭 斎藤佳雄（著）坂井文彦（改）南山堂							
履 修 上 の 注 意	実技が可能な服装で参加すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ								
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法評価学Ⅱ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	理学療法を実施するための情報収集，評価結果の統合と解釈，問題点の抽出，プログラム立案，効果判定の一連の手順について，論理的思考を基にした臨床推論能力を身につける為の講義を行なう．							
一般目標	理学療法対象者に関する情報収集，問題点の分析，解決方法のためのプログラム立案ができる．							
到達目標	症例に即した評価項目の選択と評価結果の解釈，問題点の抽出，目標設定，治療プログラム作成までの過程を，障害構造モデルを用いながら実践する事ができる．							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	課題レポート 30%、定期試験結果 70%							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 5.31 (水) 1-2	理学療法評価の目的	理学療法評価の目的について学ぶ．					南澤
2		障害構造の分析法	障害構造モデルを用いた理学療法評価過程を学ぶ．					
3	5. 6. 7 (水) 1-2	理学療法評価方法と情報収集	理学療法実施に必要な評価項目の選択方法とその評価の意義を学ぶ．					
4		統合と解釈，問題点の抽出，目標設定，プログラムの立案方法	理学療法評価から得られた情報を基に統合と解釈，プログラム立案までの学習を行なう．					
5	5. 6.14 (水) 1-2	Paper patient による臨床推論	急性期，回復期，外来，在宅などの場面を想定して，事例を通して臨床推論を学ぶ．					
6								
7	5. 6.21 (水) 1-2	診療記録・ケースレポートの作成方法	症例報告書作成法および診療記録法について学ぶ．					
8								
9	5. 6.28 (水) 1-2	歩行分析による理学療法評価①	・身体機能障がいによって引き起こされる異常歩行のメカニズムを学ぶ ・体幹・下肢関節ごとの異常歩行とそれを引き起こす身体機能障がいに基づき、必要な理学療法評価を学ぶ					
10								
11	5. 7. 5 (水) 1-2	歩行分析による理学療法評価②						
12								
13	5. 7.12 (水) 1-2	理学療法評価の演習	V T R動作をみて問題点を挙げ，理学療法プログラムを立案する．					
14								
15	5. 7.19 (水) 2							
教 科 書 参 考 図 書	参考図書 1. 臨床判断学入門 内山靖 小林武 前田眞治 (著) 協同医書出版社 2. エビデンスに基づく理学療法 内山靖, 医歯薬出版 3. ペリー 歩行分析 武田功 (監訳), 医歯薬出版							
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	学生同士や教員とのディスカッションを通じて臨床思考過程のトレーニングを積んで下さい．							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)	南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生体計測学演習		理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎 助 教・工藤 大輔	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		筋電図、三次元動作解析装置、床反力計、重心動揺計、筋トルク測定機器、超音波測定装置等を用いた評価方法とその意義について学習する。グループワークを通して、テーマの選択から実際の計測、データ解析、プレゼンテーションまでを経験する。							
一般目標		基本的な実験計画の立案と実験方法を理解し、実施することができる。							
到達目標		1) 筋電図、3次元動作解析、床反力、関節モーメントの基礎知識を理解できる。 2) 機器を使用した実験を教員の指導のもとで実践することができる。 3) 実験結果について、基本的な統計手法を用いて、関連性の検討や比較を行うことができる。 4) 実験の概略ならびに得られた結果を、文書や口頭にて報告することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		成績評価は第1～7回までの学習課題は課題レポート（50%）で行います。 8～15回までの学習課題は、スライドを用いたプレゼンテーション(50%)で行います。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当	
1	6. 1. 5 (金) 1-3	オリエンテーション及び 表面筋電図の基礎と応用	オリエンテーション及び、表面筋電図の 基本的な知識と技術を学ぶ。					加藤	
2									
3									
4	6. 1. 5 (金) 4-5	経頭蓋磁気刺激法による 脳機能計測	経頭蓋磁気刺激法による脳機能計測の 基本的な知識と技術を学ぶ。					工藤	
5									
6	6. 1. 9 (火) 3-4	3次元動作解析と関節モ ーメント	3次元動作解析と関節モーメントに関す る基本的な知識と技術を学ぶ。(講義と 実習)					南澤	
7									
8	6. 1. 10 (水) 2-5	等速性筋力測定 徒手筋力計 超音波検査 重心動揺計 パフォーマンステスト	グループワーク 筋機能やバランス機能に関連する各種 計測を実施し、全員の測定結果を基に各 項目間の関連性などを検討する。				次回のた めにデー タを整 理する	赤塚 室伏 永瀬 鈴木栄	
9									
10									
11									
12	6. 1. 17 (水) 3-4	発表テーマ検討 データ解析	グループワーク 前回計測したデータを用い、グループの テーマを決定し、データ解析を行う。				次回のた めにスラ イドを 作成する		
13									
14	6. 1. 24 (水) 3-4	グループワーク発表会	実験の概略ならびに得られた結果を、ス ライドを用いたプレゼンテーションに て発表する。						
15									
教 科 書 参 考 図 書		参考図書：計測法入門－計り方・計る意味（協同医書出版） 月城慶一、他訳：観察による歩行分析（医学書院） リハビリテーションのための臨床神経生理学（中外医学社）							
履 修 上 の 注 意		種々の機器を用いた評価・研究法に関する講義と実習を行うので、実習可能な服装で臨むこと。 発表会におけるテーマに関しては各グループで検討し、決定する。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		機器を用いた実習を通して運動の理解を深めるとともに卒業研究や、卒後の臨床研究に役立つ 知識や技術を学ぶことを目標にします。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
筋骨格系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	講 師・室伏 祐介 教 授・鈴木 克彦 教 授・加藤 浩 教 授・村 成幸	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		理学療法士が臨床場面で触れることの多い股・膝・肩関節疾患を取り上げ、これらの疾患を有する症例や術後患者に対する理学療法評価と治療に関して講義および実習を通して教授する。リスク管理や理学療法治療・指導の根拠となるバイオメカニクスに関しても説明を加える。							
一般目標		変形性関節症や靱帯・半月板損傷、肩関節疾患の障がい像を把握し、各疾患症例に対する理学療法評価と基本的な治療、指導方法について理解する。							
到達目標		1) 肩・股・膝関節疾患の病態ならびに障がい像を説明できる。 2) 肩・股・膝関節疾患に対する必要な評価項目と、理学療法の進め方を説明できる。 3) 疼痛を有する患者への基本的な触れ方や関節の動かし方を、健常者を対象に実施・説明することができる。 4) 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-4) 定期試験							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5.12. 1 (金) 3	組織再生・修復 骨折と脱臼	組織再生、修復に関する講義		鈴木				
2	5.12. 1 (金) 4	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害について	疾患総論に関する講義	検査方法・運動療法の復習や自主練習が必要です。	室伏				
3	5.12. 8 (金) 3	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害に対する理学療法	膝靱帯・半月板損傷や膝蓋大腿関節障害の理学療法プログラムについての学習						
4	5.12. 8 (金) 4								
5	5.12.15 (金) 3	変形性膝関節症・人工膝関節置換術後の理学療法	変形性膝・股関節症に対する理学療法評価、治療を講義と実技を通して行う。また、理学療法治療・指導の根拠となるバイオメカニクスに関して説明を加え、筋緊張の評価や疼痛評価の方法を紹介しながら具体的治療方法について実技を行う。	各疾患の病態について復習しておくこと。	加藤				
6	5.12.15 (金) 4								
7	5.12.22 (金) 3								
8	5.12.22 (金) 4								
9	5.12.22 (金) 5								
10	6. 1. 5 (金) 3	大腿骨近位部骨折および人工股関節置換術後の理学療法	骨折・手術の特徴や合併症および股関節術後の理学療法評価・治療について講義・演習を行う	運動療法・介助方法の復習や自主練習が必要です。	室伏				
11	6. 1. 5 (金) 4								
12	6. 1.19 (金) 3	肩関節周囲炎、腱板断裂、肩関節脱臼の理学療法	総論・画像・手術に関する講義	課題症例について臨床推論する。	鈴木				
13	6. 1.19 (金) 4		理学療法評価と治療に関する講義						
14	6. 1.26 (金) 3		肩関節周囲炎、腱板断裂の症例についてディスカッションする。						
15	6. 1.26 (金) 4								
教 科 書 参 考 図 書		教科書：Crosslink 運動器障害理学療法学（メジカルビュー、加藤浩編集） 参考図書：「理学療法 NAVI “臨床思考” が身につく運動療法 Q&A」（医学書院、高橋哲也編集） ：骨関節障害理学療法学（文光堂、対馬栄輝・有馬慶美・編集）							
履 修 上 の 注 意		運動器障がい論、理学療法検査技術学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。実習の際は、動きやすい服装で出席すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまでに学んだ基礎的な知識や技術を統合し、臨床に応用していく第一歩の大切な授業です。積極的な態度で臨んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 村：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
筋骨格系理学療法Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子	必修	3	前期	1	非該当	否			
授業概要		理学療法士が臨床場面で関わる人が多い疾患に対する理学療法評価と治療に関して講義および実習を通して教授する。										
一般目標		疾患の病態、機能解剖学、運動学に基づいた理学療法評価と治療の考え方を理解する。										
到達目標		1) 疾患の病態と障害像を説明できる。 2) 必要な理学療法評価の項目を挙げることができる。 3) 機能障がいに対する問題点を列挙し、必要となる理学療法推論を説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-3) 定期試験で評価します。										
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当				
1	5. 6. 5 (月) 1	関節リウマチ	総論, 理学療法評価, 治療について 実技を交えて講義する				機能解剖学、運動 学、運動機能評価	赤塚				
2	5. 6. 5 (月) 2											
3	5. 6.12 (月) 1	脊髄損傷の病態, 主症状	脊髄損傷の病態, 理学療法評価お よび治療等について, 実技を交え て講義する。					永瀬				
4	5. 6.12 (月) 2	脊髄残存レベルと機能・予 後										
5	5. 6.19 (月) 1	理学療法評価および治療	脊髄損傷者の動作や ADL について 動画を用いて学習する。							学等の関連する 理学療法専門科 目をしっかり復 習して授業に臨 んでほしい 鈴木		
6	5. 6.19 (月) 2	脊髄損傷者の ADL										
7	5. 6.26 (月) 1	頸椎・腰椎・仙骨疾患 ・非特異的頸部痛・腰痛 ・腰部椎間板ヘルニア ・脊柱管狭窄症 ・頸椎症	代表的な疾患の総論・評価・治療の 講義および実技									
8	5. 6.26 (月) 2											
9	5. 7. 3 (月) 1											
10	5. 7. 3 (月) 2											
11	5. 7.10 (月) 1	肘関節・前腕疾患の理学療法 末梢神経損傷の理学療法	症例の臨床推論のディスカッショ ン									
12	5. 7.10 (月) 2											
13	5. 7.24 (月) 1	足関節・足部疾患 ・靱帯損傷 ・アキレス腱断裂 ・骨折										
14	5. 7.24 (月) 2											
15	5. 7.24 (月) 3											
教 科 書 参 考 図 書		教科書：Crosslink 運動器障害理学療法Ⅱ（メジカルビュー，加藤浩編集） ※ 補足の資料を適宜配布します										
履 修 上 の 注 意		動きやすい服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		筋骨格系の理学療法を学習します。症例の臨床推論のディスカッションでは積極的に発言してください。										
e-mail・研究室 (連 絡 先)		鈴木：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
筋骨格系理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	教 授・加藤 浩 講 師・永瀬外希子 非常勤講師・大浦 徹男	選択	3	後期	1	非該当	否	
授業概要		運動器疾患を有する患者の歩行の特徴と臨床での観察・分析方法を教授する。 筋骨格系理学療法学Ⅰ、Ⅱの授業で取り扱わなかった疾患等に対する理学療法について、講義・実技を行う。								
一般目標		・運動器疾患々々に対する基本的な歩行観察と分析（原因・代償）方法を理解する。 ・スポーツ分野の理学療法士の役割と業務、足部スポーツ外傷に対する理学療法を理解する。 ・女性のライフステージを通して生じる様々な健康問題に対する理学療法を理解する。								
到達目標		1. 代表的な運動器疾患々々者の歩行上の特徴を挙げることができる。 2. スポーツ分野の理学療法士の役割、足部スポーツ外傷に対する理学療法評価と治療理論を説明できる。 3. ウィメンズヘルスにおける理学療法の関わりかた、特徴を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		1-5) 定期試験								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習 など	担当		
1	5.10. 5 (木) 1	下肢運動器疾患の理学療法①	下肢運動器疾患の異常歩行の分析から障害像の特徴を明示し、実践的な理学療法評価方法及び、治療戦略について講義を行います。				機能解剖学、運動学、運動機能評価学等の関連する理学療法専門科目をしっかり復習して授業に臨んでほしい	加藤		
2	5.10. 5 (木) 2	下肢運動器疾患の理学療法②								
3	5.10.17 (火) 3	ウィメンズヘルス	女性特有の健康問題に対する理学療法について紹介する。					永瀬		
4	5.10.25 (水) 1 5.10.25 (水) 2	アスレチックリハビリテーション	オリンピック帯同トレーナーの役割やアスレチックリハビリテーションについて学習する。					スポット		
5										
6	6.1.18 (木) 1-3	スポーツ外傷の理学療法	スポーツ分野 PT の役割と業務 足関節外傷に対する理学療法・テーピングの実際							大浦*
7										
8										
教 科 書 参 考 図 書		資料を配布します。 参考図書：月城慶一・他訳：観察による歩行分析，医学書院								
履 修 上 の 注 意		上記の参考図書を持参して必要に応じて授業中確認して下さい。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		観察力と分析力を高めるためには、運動学的な基礎知識が必須です。 臨床実習前後に分かれますが、臨床に直結する授業なので積極的に参加してください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)		加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 大浦先生連絡担当 鈴木（克）：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp スポット講師連絡担当 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp								

*大浦徹男：山形徳洲会病院

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・永瀬外希子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		脳血管障害に対する理学療法について、基礎的な医学的知識やリスク管理を含めた各病期に応じた理学療法を教示する。							
一般目標		脳血管障害の病期に応じた理学療法評価とリスク管理を修得する。 神経学的所見をもとにした治療プログラムの立案方法を修得する。							
到達目標		脳血管障害の病期に応じた基本的な理学療法とリスク管理ができる。 神経学的所見をもとに治療プログラムを立案できる							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験で評価します。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 9. 28 (木) 3	概論・病態	脳血管障害に対する理学療法の概略を学習する					南澤	
2	5. 10. 5 (木) 3	急性期の理学療法	各病期におけるリスク管理、評価手順や評価項目および治療法について学習する					南澤	
3	5. 10. 5 (木) 4								
4	5. 10. 12 (木) 3								
5	5. 10. 12 (木) 4								
6	5. 10. 19 (木) 1	回復期の理学療法	回復期リハビリテーションの目的や方法, 治療法について学習する					永瀬	
7	5. 10. 19 (木) 2								
8	5. 11. 2 (木) 3	回復期の理学療法	筋緊張・高次脳機能障害および歩行の評価と治療について学習する					南澤	
9	5. 11. 2 (木) 4								
10	後日連絡	早期離床にむけた理学療法アプローチの実際	画像所見と神経症状および予後予測について学習する					今川	
11									
12	5. 11. 9 (木) 3	脳血管障害と画像所見	CT, MRI の見方を学習する					南澤	
13	5. 11. 9 (木) 4	起居動作の動作観察および動作分析	基本動作の分析方法について学習する						
14	5. 11. 16 (木) 3	ケーススタディ	症例を通して、理学療法評価から治療プログラム立案までを学習する						
15	5. 11. 16 (木) 4								
教 参 考 図 書		教科書 ・配布資料 参考図書 ・今日の理学療法指針 医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 (第2版) MEDIC MEDIA							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e-mail・研究室 (連 絡 先)		南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp, 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
神経系理学療法学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・南澤 忠儀 講 師・赤塚 清矢	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	神経系疾患の理学療法や新たな治療戦略について教示する。								
一般目標	神経・筋疾患に対する理学療法評価と介入方法について説明できる。								
到達目標	神経・筋疾患の病態および一般的な理学療法評価項目を列挙できる. 神経・筋疾患の基本的な理学療法評価および介入方法を実践できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	定期試験(100%)で評価します。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 5. 18 (木) 4	神経・筋疾患と理学療法	各疾患に対する病態・理学療法 評価, 手順および介入方法につ いて講義を行なう				南澤		
2	5. 5. 25 (木) 4	パーキンソン病							
3	5. 5. 25 (木) 5	筋萎縮性側索硬化症(ALS)							
4	5. 6. 1 (木) 4	多発性硬化症							
5	5. 6. 1 (木) 5	重症筋無力症・皮膚筋炎							
6	5. 6. 8 (木) 4	末梢神経障害(ギランバレー)					赤塚		
7	5. 6. 8 (木) 5	脊髄小脳変性症							
8	5. 6. 15 (木) 4	神経難病に対する理学療法 の進め方					石川		
9	5. 6. 15 (木) 5	ケーススタディ①	初期評価から統合解釈までの 過程を学習する 治療プログラム立案から介入 までを学習する				南澤		
10	5. 6. 22 (木) 4	ケーススタディ②							
11	5. 6. 22 (木) 5								
12	5. 6. 29 (木) 4	ケーススタディ③							
13	5. 6. 29 (木) 5								
14	5. 7. 6 (木) 4	ケーススタディ④							
	5. 7. 6 (木) 5								
教 参 考 図 書		教科書： ・配布資料 参考図書 ・今日の理学療法指針 内山 靖(総編集) 医学書院 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 (第2版) MEDIC MEDIA							
履 修 上 の 注 意		この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		南澤:研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 赤塚:研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生			
神経系 理学療法学特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准 教 授・渡部 潤一 准 教 授・南澤 忠儀 非常勤講師・ 内山 靖	選択	3	後期	1	非該当	否			
授業概要	中枢神経系の障がい考えたとき、脳実質の損傷や難治性疾患によって多様な病態や症候が出現する。重度な神経障がい患者への試みとして、臨床の第1線で行われている理学療法を紹介し、今後の展望を考える。											
一般目標	神経障がい者の動作観察による臨床推論過程を理解する 運動制御理論と姿勢制御理論を理解する 脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。											
到達目標	神経障がい者の動作観察による臨床推論過程を説明できる 運動制御理論と姿勢制御理論を説明できる 脳血管疾患や神経難病の病期に応じた理学療法プログラムを作成し、実行できるようになるために、評価から問題点抽出、プログラム立案、実施できる能力を身につける。											
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。											
授業計画												
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外 学習など	担当				
1	5.10.11 (水) 1-5	基本動作の神経基盤			基本動作に対する外的刺激による運動制御の変調を学習する			南澤				
2		立位制御に対する物理的刺激の効果 (1)										
3		立位制御に対する物理的刺激の効果 (2)										
4		視覚刺激と立位制御										
5		歩行制御に対する外的刺激の効果										
6	5.10.19 (木) 1-5	動作観察による臨床思考過程の展開1 (演習)			中枢神経疾患に対する臨床思考過程を講義、演習、実習を通して学習する			内山				
7		動作障がいからみた運動療法介入 (演習)										
8		臨床思考過程からみた神経疾患の診かた (講義)										
9		パーキンソンニズムの評価と治療 (講義+実習)										
10		動作観察による臨床思考過程の展開2 (演習)										
11	6. 1. 4 (木) 3-4	運動制御と運動学習			運動制御と運動学習理論から理学療法への応用を考える。			渡部				
12		姿勢制御										
13	6. 1.11 (木) 3-5	脳血管障がいに対する急性期理学療法			脳血管障害に対する理学療法の目的を理解するとともに、理学療法技術の実践を学ぶ。							
14		脳血管障がいに対する回復期理学療法										
15		脳血管障がいに対する慢性期理学療法										
教 科 書 参 考 図 書		資料を配布します。 ＜参考図書＞随時紹介します。										
履 修 上 の 注 意		学生の理解度によっては、シラバスの項目内容の変更が発生することもあります。										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		中枢神経障がいに対して理学療法士は何ができるのか？ 可能性を考えてください。										
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		渡部：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp										

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
小児理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一	必修	2	後期	2	非該当	否	
授業概要	障がい児を理解する上で必要な正常運動発達を解説する。 脳性麻痺を中心に障がい児に関する基礎的知識、理学療法評価及び治療の考え方を解説する。									
一般目標	障がい児を理解する上で必要な正常運動発達を理解する。 脳性麻痺を中心に障がい児に関する基礎的知識、理学療法評価及び治療の考え方を理解する。									
到達目標	療育、小児理学療法の意義を説明できる。 運動発達と反射・反応の関係を説明できる。 運動発達の連続性のある内容を説明できる。 上肢機能および視覚機能の発達と発達過程全般との関連を説明できる。 脳性麻痺の障がい特性および理学療法の基本的概念を説明できる。									
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。									
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
1	5. 11. 27 (月) 3 5. 11. 27 (月) 4	小児理学療法総論		療育について、小児理学療法の 意義を学ぶ				渡部		
2		正常運動発達 1 (反射・反応)		小児の反射・反応の体験を通し て学ぶ						
3	正常運動発達 2 (0－3 ヶ月)		運動発達過程について演習を 通して学ぶ							
4	正常運動発達 3 (4－6 ヶ月)									
5	正常運動発達 4 (7－9 ヶ月)									
6	正常運動発達 5 (9－12 ヶ月)									
7	正常運動発達 6 (上肢機能の発達)		上肢機能発達と発達過程全般 との関連							
8	正常運動発達 7 (視覚機能の発達)		視覚機能の発達と発達過程全 般との関連							
9	胎児の発達		正常運動発達を理解する							
10	運動発達検査		異常発達と運動発達障がいと の関係を学ぶ							
11	脳性麻痺の原因と病理		脳性麻痺の障がい特性および 理学療法の基本的概念を学ぶ							
12	脳性麻痺の分類									
13	脳性麻痺の症状と二次障がい									
14	6. 1. 22 (月) 3 6. 1. 22 (月) 4 6. 1. 22 (月) 5		脳性麻痺に対する理学療法評価 1		理学療法を実践するうえで必 要となる評価、介入の概要と構 成要素を理解する					
15	脳性麻痺に対する理学療法評価 2									
教 科 書 参 考 図 書	教科書：未定									
履 修 上 の 注 意	全ての講義に出席することが前提となります。ただし、公欠等の場合には、その都度、課題を 与えて対応しますので、事後であっても必ず申し出てください。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	小児理学療法の先生はこどもたちです。一緒に学んでいきましょう。									
e－mail・研究室 (連 絡 先)	渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生		
小児理学療法学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一	必修	3	前期	1	非該当	否		
授業概要	代表的な小児疾患の発達の特性、臨床像、理学療法評価および理学療法の原則を解説する。										
一般目標	代表的な小児疾患の発達の特性、臨床像、理学療法評価および理学療法の原則を理解する。										
到達目標	脳性麻痺の類型毎の運動発達過程、理学療法の原則について説明できる。 発達性協調運動障害、低出生体重児・ハイリスク児、知的障がい児、筋ジストロフィー、二分脊椎、骨系統疾患の臨床像と理学療法について説明できる。										
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。										
授業計画											
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当			
1	5. 4. 12 (水) 1 5. 4. 12 (水) 2	脳性麻痺 (痙直型)	脳性麻痺の類型毎の運動発達過程 の特徴、理学療法の原則を学ぶ					渡部			
2		脳性麻痺 (痙直型)									
3	5. 4. 19 (水) 1 5. 4. 19 (水) 2	脳性麻痺 (痙直型)									
4		脳性麻痺 (アテトーゼ型)									
5	5. 4. 26 (水) 1 5. 4. 26 (水) 2	脳性麻痺 (アテトーゼ型)									
6		脳性麻痺 (失調型)									
7	5. 5. 10 (水) 1 5. 5. 10 (水) 2	発達性協調運動障害	小児疾患の臨床像と理学療法につ いて、講義と実技を通して学ぶ								
8		低出生体重児・ハイリスク児									
9	5. 5. 17 (水) 1 5. 5. 17 (水) 2	知的障がい児・ダウン症児									
10		筋ジストロフィー									
11	5. 5. 24 (水) 1 5. 5. 24 (水) 2	二分脊椎									
12		骨系統疾患									
13	後日連絡	発達障がい理学療法の実際	発達障がい理学療法の評価、理学療 法を見学・体験する								
14											
15											
教 科 書 参 考 図 書		教科書：細田多穂監修「小児理学療法学テキスト改訂第3版」 南江堂 参考図書：必要に応じて紹介します。									
履 修 上 の 注 意		講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。									
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		小児疾患は多種多様ですので、知識を得ると共に、病態のイメージを考えることが大事です。									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp									

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
小児理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准教授・渡部 潤一 非常勤講師・ 宮崎 泰 金子 断行	選択	4	後期	1	非該当	否	
授業概要		小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案までを学生自ら実践するために、症例を提示し解説する。 また、運動発達検査、背臥位から歩行までの誘導方法、新生児集中治療における理学療法、重症心身障がい 児の理学療法について解説する。								
一般目標		講義および症例検討を通して小児疾患に対する総合的な評価・治療計画立案の方法を理解する。								
到達目標		症例検討を通して、理学療法評価及び治療計画を立案できる。 脳性麻痺児に対する運動発達検査を説明できる。 発達障がい児に対する背臥位から歩行までの基本的な誘導方法を身につける。 重症心身障がい児の理学療法について説明できる。 新生児集中治療における理学療法の概要を説明できる。 特別支援学級における理学療法の概要を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		出席状況、授業態度、定期試験、課題レポートの結果を総合して評価します。								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当					
1 2 3 4	後日連絡	演習・歩行の誘導	背臥位から立位・歩行 までの誘導法を学ぶ	基礎運動学の歩行に関する 章を事前学習しておくこと	宮崎					
		演習・運動発達検査	GMFM と GMFCS の活用に ついて学習する。その 他の発達検査（遠城寺 式乳幼児分析的発達検 査法、Denver II、運動 年齢検査、PEDI）につ いて、紹介する	脳性麻痺の類型別発達を事 前学習しておくこと。臨床 理学療法マニュアル-改訂 第2版 P74-76、GMFM 粗大運 動能力尺度(医学書院)を事 前学習しておくこと						
5 6 7		後日連絡	重症心身障がい児の理学療法	重症心身障がい児に対 する評価、理学療法の 実施までを身につける		「DVD 重症心身障害児・者の 呼吸リハビリテーション」 による事前学習をしてくだ さい	金子			
8 9		5.11. 2 (木) 3 5.11. 2 (木) 4	新生児理学療法	新生児集中治療におけ る理学療法を学ぶ			渡部			
10 11	5.11.16 (木) 3 5.11.16 (木) 4	特別支援学級における理学療 法	特別支援学級における 理学療法を学ぶ							
12 13	5.11.30 (木) 3 5.11.30 (木) 4	症例検討 脳性麻痺痙直型	グループワークにより 理学療法評価及び治療 計画を立案し発表する	運動発達及び脳性麻痺類型 別運動発達などの過去の授 業内容を復習し参加してく ださい						
14	5.12.14 (木) 3	症例検討脳性麻痺アテトーゼ 型								
15	5.12.14 (木) 4	発達障がい児の運動指導								
教 科 書 参 考 図 書		教科書 特に指定しない。資料配布を行う予定です。 参考書 (宮崎先生) 千住秀明監修「こどもの理学療法 第3版」 神陵文庫 黒川幸雄・他「臨床理学療法マニュアル-改訂第2版」 南江堂 近藤泉・福田道隆監訳「GMFM 粗大運動能力尺度」 医学書院 (金子先生) 紀伊克昌監訳「正常発達-脳性まひ治療への応用-」 三輪書店 金子断行・花井丈夫監修「DVD 重症心身障害児・者の呼吸リハビリテーション」(アローウィン)								
履 修 上 の 注 意										
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		実技実習も行います。積極的な参加を望みます。 これまでに学習した基礎知識を十分復習した上で臨んでください。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)		渡部潤一：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単 位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期理学療法学		理学療学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子 助 教・工藤 大輔	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要		・加齢に伴う生理・運動・精神・心理機能の変化に対する理学療法の関わりについて解説する。 ・高齢者に対する各種制度を概観し、制度下で実施されている理学療法を解説する。							
一般目標		・高齢期に起こりやすい障がいの成因を理解する。 ・高齢者を取り巻く社会的環境や法・制度を理解する。 ・高齢者に対する理学療法の現状や課題を認識する。							
到達目標		・加齢に伴う生理機能や運動機能および精神・心理機能を説明できる。 ・高齢者の姿勢・運動の特徴を説明できる。 ・高齢者に対する種々の制度と理学療法の関与を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		毎回の課題の成績を総合して評価する。(初回授業時に説明する。)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法			担当	
1	5. 9. 28 (木) 2	・授業オリエンテーション ・高齢期理学療法の概念 ・高齢者の尊厳保持			・高齢者に対する理学療法の特徴 ・理学療法士が認識すべき高齢者の尊厳保持			丹野	
2	5. 10. 5 (木) 1	・高齢期の諸機能の特性 ・理学療法に影響する課題			低栄養、フレイル及びサルコペニアと理学療法			丹野	
3	5. 10. 5 (木) 2				加齢に伴う生理機能の変化			工藤	
4	5. 10. 19 (木) 1				加齢に伴う神経機能の変化			工藤	
5	5. 11. 2 (木) 1				高齢期の摂食嚥下障がいと排泄障がいと理学療法			工藤	
6	5. 11. 9 (木) 1				加齢に伴う運動機能の変化			工藤	
7	5. 11. 16 (木) 1				ロコモティブシンドロームと理学療法			工藤	
8	5. 11. 30 (木) 2				転倒への対応			工藤	
9	5. 12. 7 (木) 2				高齢者の姿勢・運動の特徴と分析方法			工藤	
10	5. 10. 19 (木) 2				加齢に伴う精神・心理・記憶機能の変化			丹野	
11	5. 11. 2 (木) 2				認知症と理学療法			丹野	
12	5. 11. 9 (木) 2	高齢者とのコミュニケーション			高齢者とのコミュニケーション方法			丹野	
13	5. 11. 16 (木) 2	高齢期の保健・医療・福祉制度と理学療法士の関わり			・介護予防の基本的視点と理学療法士の関与 ・高齢者の権利擁護			丹野	
14	5. 12. 14 (木) 1	高齢者の機能・能力の評価			高齢者に対する身体機能と能力の評価方法の実技			丹野 工藤	
15	5. 12. 14 (木) 2								
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：◎池添冬芽編集「高齢者理学療法学」メジカルビュー 参考図書：随時紹介します。							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・「地域リハビリテーション学」「地域理学療法学」「臨床実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に直結する内容が多く含まれていることに留意してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		誰にでも必ず訪れる“老い”について、理学療法の目を通して考えましょう。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
高齢期理学療法学 特別講義		理学療法学科 (専門科目)	准 教 授・丹野 克子 非常勤講師・石川 雅樹 非常勤講師・佐藤 美香	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要		・高齢者に対する予防的介入を教授する。 ・高齢者とのコミュニケーション方法を教授する。 ・介護保険制度下で提供される訪問理学療法について臨床の実際を教授する。 ・がん、熱傷、褥瘡への理学療法士の介入について臨床の実際を教授する。							
一般目標		・高齢者を対象にした介護予防のあり方を理解する。 ・高齢者の理学療法実施時に必要なコミュニケーションの基本を身につける。 ・介護保険制度の訪問理学療法について理解する。 ・臨床で実施されているがん、熱傷、褥瘡のリハビリテーションと理学療法について理解する。							
到達目標		・高齢者を対象にした介護予防の事業設計を体験する。 ・高齢者の理学療法実施に必要なコミュニケーション技術の基本を体験する。 ・がんのリハビリテーション、熱傷の理学療法、褥瘡対応チームへの理学療法士の関与について、評価・治療上の特徴、留意点を説明できる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		丹野（50％）：授業時の演習成果で評価する。 石川・佐藤（50％）：レポート課題で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当	
1	5. 10. 6（金）3 5. 10. 6（金）4	理学療法実施上のコミュニケーション技術	理学療法実施上の事例を提示し、演劇的手法を用いてコミュニケーション技術を演習する。 グループワークで行う。			【予習】 コミュニケーションの基本		丹野	
2									
3	6. 1. 20（土）1 6. 1. 20（土）2	・がんのリハビリテーション ・熱傷の理学療法	臨床における ・がんのリハビリテーション ・熱傷の理学療法 について講義を行う。					石川	
4									
5	6. 1. 20（土）3	褥瘡対応チームにおける理学療法士の活動と介入	褥瘡の基本的な理解と対応チームにおける理学療法士の役割について講義を行う。					佐藤	
6	6. 1. 19（金）3	高齢者に対する訪問による理学療法	介護保険の訪問による理学療法の実践について講義を行う。			【予習】 介護保険制度と訪問サービス		スポット (芦埜) 1)	
7	6. 1. 26（金）3 6. 1. 26（金）4	高齢者に対する介護予防の事業設計	高齢者の介護予防について事例を提示し、事業設計を演習する。 グループワークで行う。			【予習】 介護予防		丹野	
8									
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：授業時に資料を配布します。 参考図書：◎池添冬芽編集「高齢者理学療法学」メジカルビュー							
履 修 上 の 注 意		丹野担当分：「高齢期理学療法学」に基づく演習を行いますので、復習して臨んでください。 芦埜担当分：介護保険制度を復習して臨んでください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		各内容に関して予習・復習をし、積極的に取り組むことを望みます。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

1) 芦埜達哉（在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト、理学療法士）

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内科系理学療法学Ⅰ		理学療法学科 (専門科目)	講師・赤塚 清矢 助教・鈴木栄三郎	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法を教授する。								
一般目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する理学療法の基本的評価と治療について理解する。								
到達目標	①内科系疾患の基本的な理学療法について理解できる。 ②内科系疾患の各種病態を理解できる。 ③内科系疾患に対する基本的な理学療法（評価および治療技術）を理解できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標は、期末筆記試験（100%）にて成績評価を行う。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など			担当	
1	5. 9. 26（火）3	内科系理学療法学総論	内科系理学療法学の解説（講義）		呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。			赤塚	
2	5. 9. 26（火）4	代謝性疾患の理学療法	代謝性疾患総論・エネルギー消費量・運動強度と運動プログラム・代謝性疾患の運動療法（講義）						
3	5. 10. 3（火）4								
4	5. 10. 3（火）5	腎疾患の理学療法	慢性腎不全の理学療法（講義）						
5	5. 10. 10（火）4	循環器疾患の理学療法	心疾患の理学療法総論（講義）					鈴木	
6	5. 10. 10（火）5		虚血性心疾患の理学療法（講義）						
7	5. 10. 17（火）4		大血管疾患の理学療法（講義）						
8	5. 10. 17（火）5		心臓弁疾患の理学療法（講義）						
9	5. 10. 24（火）4		末梢動脈疾患の理学療法（講義）						
10	5. 10. 24（火）5	呼吸器疾患の理学療法	呼吸器疾患の理学療法の総論（講義）						
11	5. 10. 31（火）3		急性呼吸不全・周術期の理学療法（講義）						
12	5. 10. 31（火）4		慢性閉塞性肺疾患に対する理学療法（講義）						
13	5. 11. 7（火）3		間質性肺炎に対する理学療法（講義）						
14	5. 11. 7（火）4		脊髄損傷・脳損傷の呼吸理学療法（講義）						
15	5. 11. 14（火）3	運動負荷試験	トレッドミル、自転車エルゴメータ、6分間歩行試験、Shuttle Walking testー（講義）					赤塚	
教 参 考 図 書	教 科 書：Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 参考図書：◎ビジュアルレクチャーー内部障害理学療法学ー ◎心臓リハビリテーション必携 ◎呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法ー第2版 この他は授業中に紹介する。 メジカルビュー社 医歯薬出版株式会社 株式会社コンパス 照林社								
履 修 上 の 注 意	呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学などを復習して授業に臨むこと。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	赤塚 清矢：研究室14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生						
内科系理学療法学Ⅱ		理学療学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 助 教・鈴木栄三郎 非常勤講師・舟見 敬成	必修	3	前期	1	非該当	否						
授業概要	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）の病態に応じた理学療法を教授する。														
一般目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する理学療法の基本的評価と治療について実施できる。														
到達目標	内科系疾患（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患）に対する基本的な評価および治療技術を習得する。														
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	到達目標は、期末筆記試験（100%）にて成績評価を行う。														
授業計画															
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当							
1	5. 6. 13（火）3	呼吸器疾患の理学療法	呼吸音聴診（演習） 呼吸介助手技（演習）			呼吸・循環・代謝に関する解剖学・生理学・病理学・内科学の基礎知識を復習すること。		鈴木							
2	5. 6. 13（火）4														
3	5. 6. 20（火）3														
4	5. 6. 20（火）4														
5	5. 6. 20（火）5														
6	5. 6. 27（火）3	循環器疾患の理学療法	心電図と不整脈（講義、演習）							舟見					
7	5. 6. 27（火）4														
8	後日連絡	内科系理学療法トピックス	心疾患を中心に臨床的視点を学ぶ。（講義）								舟見				
9															
10															
11	5. 7. 5（水）3	運動負荷試験と理学療法プログラムの作成	運動負荷試験を行い、理学療法プログラムを作成する。（演習）									赤塚			
12	5. 7. 5（水）4														
13	5. 7. 5（水）5														
14	5. 7. 12（水）3														
15	5. 7. 12（水）4														
教 科 書 参 考 図 書		教 科 書：Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学 参考図書：◎ビジュアルレクチャー―内部障害理学療法学― ◎心臓リハビリテーション必携 この他は授業中に紹介する。										メジカルビュー社 医歯薬出版株式会社 株式会社コンパス			
履 修 上 の 注 意		内科系理学療法学Ⅰの内容を復習して授業に臨むこと。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。													
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。													
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp													

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
内科系理学療法学 特別講義	理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 助 教・鈴木 栄三郎	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要	内科系理学療法に関連した課題への対応を学ぶ。							
一般目標	内科系理学療法に関連した課題への適応方法について理解する。							
到達目標	ヘルスプロモーションと理学療法について理解する。 種々の呼吸障がいが必要となる喀痰等の吸引技術を習得する。 集中治療室における理学療法士の役割について理解する。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	内科系理学療法に関連した課題への適応方法についてのレポート課題 (50%) 「集中治療室における理学療法」での演習課題 (50%)							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など			担当	
1 2	6. 1. 4 (木) 1-2	ヘルスプロモーションと理学療法	講義と討論	内科系理学療法学 Ⅰ・Ⅱを復習して臨 むこと。			赤塚	
3 4	6. 1.11 (木) 1-2		講義と演習					
5 6	後日連絡	喀痰等の吸引	講義と実技				看護学科 教員	
7 8	後日連絡	集中治療室における理学療法	講義と演習					
教 科 書 参 考 図 書		教科書：特に指定しない 参考書：授業中に紹介する						
履 修 上 の 注 意		内科系理学療法学Ⅰ・Ⅱを復習して授業に臨んでください。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		内科系の理学療法を修得すると、理学療法士としての幅が広がります。						
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		赤塚 清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法技術学		理学療法学科 (専門科目)	非常勤講師 星 真行 浅田 啓嗣	選択	3	後期	1	非該当	否
授業概要		○理学療法治療技術の一つである神経生理学的アプローチの中で、体系的な治療技術である固有受容性神経筋促通手技 PNF の理論を説明し、基本的技術の実技指導を行う。 ○理学療法の重要な治療手段である徒手療法の基礎を教授し、基本的技術の指導を行う。							
一般目標		○固有受容性神経筋促通手技 PNF の理論及び基本的技術を理解する。 ○徒手療法の基本的原理を理解し基本的な手技を体験する。							
到達目標		(星) PNF の理論を説明し、基本的技術を実施できる。 (浅田)①関節及び軟部組織モビライゼーションの原理を理解し、基本的な技術の臨床応用方法を説明できる。 ②関節・筋および神経の構造と機能を考慮した関節機能障害の評価方法を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		(星) 基本手技の習得を評価 (50%) (浅田) 成績は課題レポートで評価 (50%)							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題		学習内容・学習方法		授業外学習など		担当
1	5. 10. 20 (金) 1-4		固有受容性神経筋促通手技 PNF		講義と実技				星
2									
3									
4									
5	後日連絡		徒手療法の概念と基礎 筋に対する評価と治療 関節に対する評価と治療 神経組織に対する評価と治療		講義、実技によって、徒 手療法に対する基礎的 な知識と技術を習得さ せる		グループまたは個人で 運動課題に取り組むこ とがある		浅田
6									
7									
8									
教 参 考 図 書			(星) 教科書：PNF マニュアル 柳澤健，乾公美共編，改訂第 3 版，南江堂 (浅田) 参考図書 「こだわり抜く関節可動域運動」文光堂 斉藤秀之・加藤 浩 編集 「物理療法学 第 5 版」 医学書院 網本 和・菅原 憲一 編集						
履 修 上 の 注 意			集中講義ですので欠席しないよう注意すること。 講義中に実技も行いますので、動きやすい服装で出席してください。(遠隔授業となる場合があります)。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ									
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)									
連 絡 調 整 担 当 教 員			星 先生連絡担当 永瀬外希子 浅田先生連絡担当 鈴木栄三郎						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生	
物理療法学		理学療法学科 (専門科目)	教 授・鈴木 克彦 講 師・永瀬外希子 講 師・室伏 祐介 助 教・鈴木栄三郎	必修	3	前期	2	非該当	否	
授業概要		1) 種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌、実施方法の手順について教授する。 2) 電気、温熱、寒冷、水治、牽引、光線の物理療法を、臨床場面で安全かつ適切に実践する為に必要なオリエンテーション、リスク管理、機器の操作方法、効果判定等についての技術を教授する。								
一般目標		1) 物理療法による生体反応（効果）、適応および禁忌、効果判定方法を理解する。 2) 各種の物理療法を正しい手順で安全かつ適切に実施する。								
到達目標		1) 物理療法による生体反応、適応および禁忌、効果判定方法について説明できる。 2) 種々の物理療法について正しい実施方法を説明し、リスクに配慮しながら適切な手順で実施できる。 3) 物理療法前後の生体反応からその効果について論理的に説明することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		定期試験（60％）、実技試験・レポート（40％）を総合的に判断して評価する。								
授業計画										
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			授業外学 習など	担当		
1	5. 4. 10（月）3	物理療法学総論		物理療法の総論、鎮痛メカニズム、温熱療法の効果の生理学を説明する			生理学をはじめとする基礎医学の知識が必要です。ので、適宜復習してください	鈴木克		
2	5. 4. 17（月）3	ホットパック・パラフィン		ホットパック、パラフィンの特徴、適応・禁忌、実施方法について説明する						
3	5. 4. 17（月）4	極超短波療法・超短波療法		生理的作用、適応・禁忌、実施方法を説明する						
4	5. 4. 24（月）3	超音波療法		超音波の発生原理、物理的特性、生体への影響、適応・禁忌を説明し、実演する						
5	5. 4. 24（月）4									
6	5. 5. 1（月）3	水治療法		水の特性、生理的作用、適応、禁忌について説明する						
7	5. 5. 1（月）4	寒冷療法		寒冷療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法について説明する						
8	5. 5. 8（月）3	光線療法		各種光線療法の生理的作用、適応・禁忌、実施方法を説明する						
9	5. 5. 8（月）4	牽引療法		頸椎・腰椎牽引療法の目的、効果、実施方法について説明する						
10	5. 5. 15（月）3	ホットパック・パラフィン (永瀬)		・適切に物理療法機器の操作ができるよう実習する ・グループに分かれて、実習課題の生体反応を計測する ・実験結果と文献から生理学的効果を考察し、レポートを作成する					永瀬 室伏 鈴木栄	
11	5. 5. 15（月）4									
12	5. 5. 22（月）3	超音波・極超短波・光線療法 (室伏)								
13	5. 5. 22（月）4									
14	5. 5. 29（月）3	水治・牽引・寒冷療法（鈴木栄）								
15	5. 5. 29（月）4									
16	5. 6. 5（月）3	持続的多動運動療法：CPM バイオフィードバック BF 療法		CPM・BF 療法の目的、方法、効果について説明する					鈴木克	
17	5. 6. 5（月）4	振動刺激療法		振動刺激療法の生理的作用、目的、方法、適応、禁忌について説明し、実演する					鈴木栄	
18	5. 6. 12（月）3	電気刺激療法総論 経皮的電気神経刺激（TENS） 神経筋電気刺激（NMES） 治療電気刺激（TES） 機能的電気刺激（FES）		・電気刺激療法の原理と生理学的効果について説明する ・各電気刺激療法の生理的作用、目的、適応、実施方法、禁忌について説明し、実演する					鈴木克	
19	5. 6. 12（月）4									
20	5. 6. 19（月）3	電気刺激療法 ・ TENS ・ NMES ・ IFCS ・ 強さ時間曲線		・運動点を適切に探索する ・グループで課題に取り組み、生体反応を計測する ・計測結果と文献から生理学的効果を考察し、レポートを作成する						
21	5. 6. 19（月）4									
22	5. 6. 26（月）3									

教科書 参考図書	教科書：物理療法学 (Crosslink 理学療法学テキスト), MEDICAL VIEW 参考図書：エビデンスから身につける物理療法, 羊土社
履修上の注意	10～15 回、20～22 回：肩や大腿を露出できる服装で出席してください。 この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。
学生への メッセージ	運動療法の効果を高めるために物理療法は有効な治療法です。物理療法を科学的にとらえて実践してほしいです。 演習は、積極的に参加してください。機器操作と実際の体験を通して、課題を探究し、活発にグループディスカッションすることを期待しています。
e-mail・研究室 (連絡先)	鈴木克彦：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 鈴木栄三郎：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
義肢装具学	理学療法学科 (専門科目)	講 師・赤塚 清矢 教 授・村 成幸 非常勤講師・佐竹 将宏 講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	2	非該当	否
授業概要	義肢装具学は、理学療法士にとって重要な治療法のひとつを学ぶ授業である。装具学では、装具の目的および各種装具の基本事項と理学療法、さらに各疾患・障害に対する装具療法について教授する。義肢学では、切断術とリハビリテーションおよび各種義肢の基本事項と理学療法について教授する。							
一般目標	1) 義肢または装具の基本構造と各部品の機能を知る。 2) 義肢または装具を用いた理学療法について理解する。 3) 装具療法について理解する。 4) 切断術および切断のリハビリテーションについて理解する。							
到達目標	1) 装具の基本構造と各部品の機能について説明できる。 2) 下肢装具のチェックアウトを実施できる。 3) 脳卒中片麻痺者に対する装具療法について説明できる。 4) その他各疾患・障害に対する装具療法について説明できる。 5) 切断術および切断者の実態について説明できる。 6) 義肢の基本構造と各部品の機能について説明できる。 7) 義足の各アライメントのチェックを実施できる。 8) 切断者に対する理学療法について説明できる。 9) 切断のリハビリテーションについて説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	筆記試験（赤塚担当分：1/23、村担当分：4/23、佐竹担当分：15/23、室伏担当分：3/23） ＜佐竹担当分＞ 1) 1 回目授業日の始めに基礎テスト（20 分。義肢装具学に必要な姿勢・歩行の運動学の知識）を行う。 2) 2 回目・3 回目の各授業日の始めに、それぞれの前回の復習テスト（各 20 分程度）を行う。 3) 1～3 回のテスト(各 10%)および期末テスト(70%)で評価し、6 割以上を合格。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
1	5. 4. 11 (火) 2	ガイダンス	義肢装具学の学習内容					赤塚
2	5. 4. 28 (金) 1-2	切断術とリハビリテ ーション	切断術の適応、部位の選択、治癒過程を学 ぶ。					村
3								
4	5. 5. 19 (金) 1-2	脊椎装具	手術および脊椎外装で使用する頸椎、胸腰 椎装具の種類を学ぶ。					
5								
6	5. 5. 26 (金) 1-5	装具学総論。装具の基 本構造と各部品の機 能。下肢装具のチェッ クアウト。上肢装具。	装具の目的・種類、装具の基本構造と各部 品の機能、下肢装具のチェックアウト、上 肢装具、について学ぶ。			「装具学」のテキスト に沿って進める。テキ ストを読み予習・復習 し授業に臨むこと。		佐竹
7								
8								
9								
10								
11	5. 6. 23 (金) 1-5	義肢学総論。義足の基 本構造と各部品の機 能。義足アライメント のチェック。切断者の 理学療法。義手。	切断者の評価、義足の基本構造と各部品の 機能、義足のアライメント、義肢装着者の 理学療法、弾性包帯の巻き方、義手につい て学ぶ。			「切断とリハビリテー ション」についてのビ デオ課題に取り組んで くる。「義肢学」のテキ ストに沿って進める。		
12								
13								
14								
15								
16	5. 7. 21 (金) 1-5	疾患別装具（各障害に 対する装具療法）	脳卒中片麻痺者の装具療法について動画 を見て実習する。 その他整形外科疾患、小児疾患等の装具療 法を学ぶ。			「装具学」のテキスト に準じて進める。また、 動画等を用いた実習も 行う。		
17								
18		義肢装具学のまとめ	義肢・装具のチームアプローチ等を学ぶ。					
19								
20								
21	5. 7. 28 (金) 3-5	仮装具の作成	ギプスを使って、仮装具の作成を行いま す。			短下肢装具について復 習しておくこと		室伏
22								
23								
教 科 書 参 考 図 書	教科書：15 レクチャーシリーズ理学療法テキスト「装具学 第2版」「義肢学 第2版」各中山書店 参考書：「義肢装具のチェックポイント 第9版」医学書院							
履 修 上 の 注 意	解剖学（四肢体幹の骨、関節、神経筋を中心に）、運動学（骨指標、関節運動、歩行分析）等の知識が必要。復習して臨むこと。集中講義においてやむを得ず欠席する場合には、必ず学年担任へ連絡すること。この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	自ら積極的に学ぶ姿勢を持って臨んで欲しい。 授業では、実習のできる服装（運動着（ジャージ）、運動靴）を準備し、臨むこと（佐竹）。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 村 成幸：研究室 35 nmura@yachts.ac.jp 室伏祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 佐竹将宏：秋田大学 satake@hs.akita-u.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生活支援系 理学療法学Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子	必修	2	後期	2	非該当	否
授業概要	・生活支援系の理学療法を身につけるために、①日常生活活動（ADL）の概要、評価方法、分析の視点、 ②生活機能障がいの構造、③生活環境整備のための基本的知識について、講義や演習を行う。 ・3年前期「生活支援系理学療法学Ⅱ」の修得に必要な基本的内容の講義や演習を行う。							
一般目標	・生活機能と日常生活活動（ADL）について、概要、構成する動作、評価方法、分析視点、疾患による特徴 を理解する。 ・生活機能を支援する福祉用具や住環境整備を知る。 ・生活機能と環境因子の関係を理解する。							
到達目標	・日常生活活動（ADL）の概念の説明ができ、具体的動作が列挙できる。 ・評価基準を参照して、基本的 ADL と手段的 ADL の評価ができる。 ・基本動作の動作分析を観察により大まかに説明できる。 ・理学療法が対象とする代表的な疾患や障がいのある人の、日常生活活動（ADL）の特徴を説明できる。 ・生活機能と環境因子との関係を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	初回オリエンテーション時に説明します。 1. 課題レポート3回（各回30%） 3. 授業への取り組み方（10%） 授業中の態度等を総合的に評価する。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当	
1	5. 9. 29（金）2	オリエンテーション	【学習内容】 授業項目に示した内 容を学習する 【学習方法】 講義，演習，実技， およびこれらの組み 合わせ		予習範囲を指示 することがあり ます。		丹野	
2	5. 10. 6（金）2	日常生活活動（ADL）の概念と範囲 基本的 ADL（BADL）と手段的 ADL（IADL）						
3	5. 10. 13（金）2	生活環境と身体機能および ADL の関係						
4	5. 10. 20（金）1 5. 10. 20（金）2	観察による ADL 動作分析						
5								
6	5. 10. 23（月）1 5. 10. 23（月）2	ADL を支援する福祉用具と活用方法 物理的生活環境整備の基本的視点と法・制度						
7								
8	5. 11. 10（金）2							
9	5. 11. 17（金）2	ADL の評価方法						
10	5. 11. 24（金）2							
11	5. 12. 1（金）2	代表的な疾患・障がい別の ADL						
12	5. 12. 8（金）1 5. 12. 8（金）2	理学療法における介助の考え方 基本的 ADL の介助・支援方法						
13								
14	5. 12. 15（金）1 5. 12. 15（金）2	ICF 概念の理解と活用 授業まとめ						
15								
教 科 書 参 考 図 書	<教 科 書>◎PT・OT ビジュアルテキスト ADL（羊土社、柴喜崇ら編集） ◎生活環境学テキスト（南江堂，細田多穂） <参考図書>◎「ICF 国際生活機能分類」（中央法規出版） ◎「OT・PT のための住環境整備論」（三輪書店、野村歡ら著）、他に随時紹介							
履 修 上 の 注 意	・1年次に学んだ国際生活機能分類（ICF）を復習してから臨んでください。 ・予習内容や服装の指定，授業内容により実施場所を変更することがあります。授業前に連絡 します。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	新たな単語や概念を暗記するだけの学習ではなく、学んだことを基に総合的に考えて、表現す る習慣をつけてください。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	丹野克子：研究室6 ktanno@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
生活支援系 理学療法学Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野 克子 講 師・赤塚 清矢 講 師・永瀬外希子	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		理学療法の対象となる代表的な疾患の生活障がいとその援助方法について、講義と演習を行う。							
一般目標		・生活機能障がいの構造を理解し、評価方法、日常生活活動（ADL）の指導法、介助方法を身につける。 ・生活機能障がい援助に必要な福祉用具や環境整備についての知識を習得する。							
到達目標		・代表的な疾患や障がいに対する日常生活活動（ADL）の評価、指導、介助の要点を説明できる。 ・代表的な疾患や障がいの日常生活活動（ADL）の特徴やリスクを説明できる。 ・物理的生活環境について基準に基づいて評価できる。 ・国際生活機能分類（ICF）の概念を用いて生活機能障がいの構造を説明できる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・レポート（90%）：丹野担当分（45%）、赤塚担当分（20%）、永瀬担当分（25%） ・授業への取り組み方（10%）：主体的・意欲的・積極的な態度を評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				授業外学習など	担当	
1	5. 4. 6（木）1	オリエンテーション 移動・移乗動作介助の基本	・授業オリエンテーション ・移動・移乗介助実技				【復習】生活支援系理学療法学Ⅰで学修した移乗介助方法を復習してから出席する.	丹野	
2	5. 4. 6（木）2								
3	5. 4. 20（木）1	脳血管障がい患者の ADL	・脳血管障がい患者の動作の特徴 ・基本動作や車椅子操作の介助方法 ・5～7 回授業の事例提示と準備					丹野	
4	5. 4. 20（木）2								
5	5. 4. 28（金）3 5. 4. 28（金）4 5. 4. 28（金）5	物理的生活環境整備演習	グループワーク ・身体障がいのある人を想定し、物理的環境の評価と整備の検討および発表				【事前準備】生活支援系理学療法学Ⅰの物理的環境整備の基本 【授業後課題】演習のまとめ	丹野	
6									
7									
8	5. 5. 11（木）2	神経難病の人の ADL	・神経難病の人の ADL 動作の実際を DVD 等で学ぶ				【授業後課題】課題作成・提出	丹野	
9	5. 5. 18（木）2								
10	5. 5. 25（木）1	脊髄損傷者・頸髄損傷者の ADL①	・脊髄損傷者の方に来学いただき、グループごとに ADL を評価する				【事前準備】ADL 評価のための事前準備が必要	永瀬 丹野	
11	5. 5. 25（木）2								
12	5. 7. 7（金）3 5. 7. 7（金）4	車椅子と自助具の要点	・車椅子のチェックポイントについて理解する ・自助具の作成と評価から、ユーザビリティについて理解する					赤塚	
13									
14	5. 7. 13（木）1	脊髄損傷者・頸髄損傷者の ADL②	・脊髄損傷の損傷高位に対応する自助具の適応と種類					永瀬	
15	5. 7. 20（木）2	障がい構造の理解と分析	・国際生活機能分類（ICF）モデルに基づく生活障がいの理解 ・事例演習					丹野	
教 科 書 参 考 図 書		<教科書>◎PT・OT ビジュアルテキスト ADL（羊土社、柴喜崇ら編集） ◎生活環境学テキスト（南江堂、細田多穂） <参考図書>◎「ICF 国際生活機能分類」（中央法規出版） ◎「動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション」（医学書院、田中宏太佳ら編）							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・2年後期科目「生活支援系理学療法学Ⅰ」の復習をして臨んでください。 ・症例等の都合および全体調整のため、授業日程が変更になる場合があります。 ・内容により授業実施場所が異なります。授業前に連絡します。 ・演習・実技にふさわしい身だしなみ、服装で出席してください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		・理学療法の対象者へのアプローチの多面性を学んでください。 ・皆さんの将来に必ず役立つ授業です。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域リハビリテーション学		理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野克子	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、仕組みを講義する。 2) 地域リハビリテーションに関係する保健・医療・福祉領域の諸制度・社会資源・多職種連携その他の活動について講義する。								
一般目標	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、基本的制度を理解する。 2) 地域リハビリテーションを、保健・医療・福祉の領域から理解する。 3) 地域リハビリテーションにおけるチームアプローチを理解する。								
到達目標	1) 地域リハビリテーションの概念、歴史的背景、活動、関係職種、対象者を説明できる。 2) 地域リハビリテーションに関する基本的制度と社会資源を説明できる。 3) 地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動を説明できる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	1. 筆記試験 (60%) 2. レポート (40%)								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・ 学習方法		授業外 学習など		担当
1	5. 4. 12 (水) 3	地域リハビリテーションの概要 ・地域リハビリテーションの定義 ・地域包括ケアシステムと共生社会 ・地域リハビリテーションにおける自立支援 ・生活を支える理学療法のあり方 地域リハビリテーションの関係諸制度と理学療法士の関与 ・介護保険制度、障害者総合支援法等 ・介護予防（ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、リハビリテーション） ・医療圏と地域医療連携パス ・理学療法士の職域と関与			講義 討論 演習				丹野
2	5. 4. 19 (水) 3								
3	5. 4. 26 (水) 3								
4	5. 5. 10 (水) 3								
5	5. 5. 17 (水) 3								
6	5. 5. 24 (水) 3								
7	5. 5. 31 (水) 3								
8	5. 6. 7 (水) 3								
9	5. 6. 14 (水) 3	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動①（小児リハビリテーションの地域活動）			オンライン講義				佐藤 ¹⁾
10	5. 6. 14 (水) 4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動②（海外での活動）			オンライン講義				外部 講師 ²⁾
11	5. 6. 21 (水) 3	地域リハビリテーションにおける理学療法士の活動③（災害時の活動）			講義				丹野
12	5. 6. 22 (木) 1-2	パネルディスカッション「生活を見るときは」 理学療法学、看護学、社会学、社会福祉学などを基礎とする専門職の職種間の視点の類似と相違			看護学科「ジェネ ラリズム看護論」 と共同実施		授業後、レポ ート作成		丹野 遠藤 ^(和) ³⁾ 山田 ³⁾ 外部 講師 ⁴⁾
13									
14	5. 6. 28 (水) 3-4	地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割			前回授業とレポ ートに基づく討論 講義・討論		授業後、レポ ート作成・提出		丹野
15									丹野
教 参 考 図 書		<教科書>◎牧田光代ら編集 地域理学療法学 医学書院 <参考書>◎ヘルスプロモーション理学療法学会編集 理学療法士・作業療法士のためのヘル スプロモーション 南江堂							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定 されています。 ・外部講師の都合等により、授業日程や順序の入れ替えなど、変更になる場合があります。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		地域リハビリテーションは、社会と時代のニーズに影響を受けて展開します。理学療法士もチ ームの一員として柔軟な対応が求められます。保健・医療・福祉の将来のビジョンを理解しな がら、地域リハビリテーションの理念と現状について、自分自身で考察してください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

1) 佐藤美里（なごみの陽訪問看護ステーション）、2) 調整中、3) 看護学科、4) 調整中

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
地域理学療法学		理学療法学科 (専門科目)	准教授・丹野克子	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要		・地域理学療法として実施されている具体的な場面と活動を講義する。 ・地域における理学療法士への期待を実践者である他の専門職が講義する。							
一般目標		・地域理学療法が提供される法制度、サービスを理解する。 ・地域で理学療法士に求められていることを理解する。							
到達目標		・地域理学療法の領域と内容を述べられる。 ・通所サービスと訪問サービスにおける理学療法の特徴と内容を述べられる。 ・地域における理学療法士に対するニーズと求められる役割を述べられる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		初回時に説明します。 1. レポートによる評価 (80%) 2. 演習への参加状況と成果 (20%)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題			学習内容・学習方法		授業外学習 など		担当
1	5. 4. 10 (月) 2	地域理学療法の理解			講義				丹野
2	5. 4. 10 (月) 3	介護保険制度のケアプランと理学療法プログラム			講義・演習				丹野
3	5. 4. 17 (月) 2	通所サービスにおける理学療法			講義・演習				丹野
4	5. 4. 17 (月) 3	訪問サービスにおける理学療法			講義・演習				丹野
5	5. 4. 24 (月) 2	在宅の終末期における理学療法			講義				丹野
6	5. 4. 24 (月) 3	高齢者の領域から理学療法士に期待すること			講義		【予習】高齢者の特性		外部講師 ¹⁾
7	5. 4. 24 (月) 4	障がい者の領域から理学療法士に期待すること			講義		【予習】総合支援法		外部講師 ²⁾
8	5. 4. 27 (木) 2	地域理学療法の実施に必要なこと			講義・演習				丹野
教 科 書 参 考 図 書		<教科書> ◎牧田光代ら編集 地域理学療法学 医学書院 <参考図書> 随時紹介							
履 修 上 の 注 意		・「地域リハビリテーション学」から連続する内容です。十分に復習して臨んでください。 ・「臨床実習Ⅴ」に直接つながる内容です。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		地域における理学療法は、社会と時代のニーズに対応し、法・制度の影響を大きく受けます。 講義や課題に取り組みながら、社会から求められる理学療法とは何かを考えてください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

1) 調整中、2) 調整中

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法研究法		理学療法学科 (専門科目)	講 師・室伏 祐介	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要	研究論文を読み、理解するために必要となる基礎的な構成要素を講義・演習を通して教授する。								
一般目標	研究論文を理解して読めるようになることで、自身の研究実施の際の参考とできる基礎を身につける。								
到達目標	医学系研究論文の基本的な読み方を理解できるようになること。 文献を検索できるようになること。 研究論文を読解・要約できるようになること。 医学研究における倫理を理解できるようになること。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	課題レポートで評価する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習 など		担当	
1	5. 4. 10 (月) 2	理学療法と研究，論文の読み方	教科書に基づく講義			教科書の予習・復習		室伏	
2	5. 4. 17 (月) 2	研究方法， バイアス							
3	5. 4. 24 (月) 2	研究デザイン， PICO/PECO							
4	5. 5. 1 (月) 2	研究倫理， 倫理審査							
5	5. 5. 8 (月) 1 5. 5. 8 (月) 2	文献検索の方法	講義と演習			課題作成			
6									
7	5. 5. 15 (月) 1 5. 5. 15 (月) 2	研究領域・方法等	教員の研究領域に関する紹介			研究領域・方法の探索		学科 全教員	
8									
教 科 書 参 考 図 書	教科書：最新理学療法講座 理学療法研究法、医歯薬出版株式会社								
履 修 上 の 注 意	この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない一定の他の科目に指定されています。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めから研究が得意な人はいませんので、苦手意識があるのは当然です。後期の理学療法研究法演習、4年次の卒業研究を経て、段階的に研究の基本を学習することができれば大丈夫です。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	室伏祐介：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp								

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法研究法演習		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科全教員	必修	3	後期	1	非該当	否
授業概要		理学療法学における研究の必要性や方法を教授する。							
一般目標		・研究の必要性、研究過程に関して理解する。 ・卒業研究を遂行するための基本を身につける。							
到達目標		研究に必要な次の項目について、ゼミを通して実施できる。 ・理学療法に関する研究テーマの設定 ・研究テーマを設定していくための先行研究検索・収集・読解 ・研究方法の理解 ・研究計画作成過程における討論 研究計画を発表することができる。 ・研究発表の方法の理解 ・研究計画のプレゼンテーション実施							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ゼミ内での研究課題設定や研究計画の作成、卒業研究計画発表会でのプレゼンテーション ・各指導教員が評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法	授業外学習など	担当				
1	5. 7. 27 (木) 2	ゼミ配置オリエンテーション	ゼミ配置決定、研究室での接遇、卒業研究の全体スケジュール		担任				
2	5. 10. 4 (水) 3	理学療法研究におけるデータ解析	医療分野の論文の投稿規定における統計学の取り扱いについて 理学療法学分野における統計学手法の変遷、データ表記		石川				
3	5. 10. 10 (火) 3		統計学的検定に必要な基礎知識、P 値、交絡因子、オッズ比						
4	5. 10. 10 (火) 4		ロジスティック回帰分析、相関と回帰、重回帰分析						
5	5. 10. 13 (金) 3		95%信頼区間、統計学的有意と臨床学的有意、カプランマイヤー生存分析、COX 比例ハザードモデル						
6	5. 10. 13 (金) 4		感度、特異度、カットオフ値、トレードオフ、偽陽性、偽陰性、メタ・アナリシス						
7-12		ゼミ 先行研究検討 研究計画作成 研究計画発表方法	ゼミ 各指導教員が、研究に必要な文献の収集方法や研究実施方法等について定期的あるいは必要に応じて集中的に指導する	研究課題設定・計画作成のため、自ら先行研究や情報の収集・検討を行う。	各指導教員				
13	6. 1. 15 (月) 2	卒業研究計画発表会オリエンテーション、発表準備	発表者としてのコミュニケーション・スキル		担任				
14 15	6. 1. 15 (月) 3 6. 1. 15 (月) 4	卒業研究計画発表会	研究紹介とポスターでの討論	発表時の討論とその後のゼミを通して計画を適宜修正する。	学科全教員				
教 科 書 参 考 図 書		授業中およびゼミ中に紹介する。							
履 修 上 の 注 意		自ら主体的に参加すること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		新しい知見に到達しようという意欲をもって取り組むこと。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		鈴木 克彦：研究室 31・ksuzuki@yachts.ac.jp 永瀬外希子：研究室 23・tishiguri@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
理学療法卒業研究		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科全教員	必修	4	通年	2	非該当	否
授業概要		・研究計画に基づいて研究を実施し、卒業論文を完成させるまでの一連の過程を経験する。 ・研究結果をまとめ、ポスターおよび口述での発表を行う。							
一般目標		・研究計画の立案から研究の実施、結果の解析、考察と結論の導出までの一連の基本的なプロセスを理解し 実行することができる。 ・研究論文の作成、プレゼンテーションについての基本的な知識・技術を身につける。							
到達目標		・理学療法に関する研究テーマを見出し、その検証のために積極的に行動できる。 ・研究テーマに関する先行研究の検索と読解を行い、適切に引用できる。 ・自らの研究テーマを検証するための研究計画を立案することができる。 ・研究計画に従って研究を実施し、得られた結果をまとめ、結果に対する妥当な考察、結論の導出ができる。 ・研究内容を他者に伝えるための発表と論文作成ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		・ゼミを通して、論文作成を含む研究への取り組み方を評価します。(評価者：指導教員) ・ポスターおよび口述による研究発表を評価します。(評価者：学科全教員)							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法		授業外学習など		担当		
	4月～ 12月初旬	研究の実施 対象者への説明と同意 実験や調査の実施 研究結果の解析 目的・仮説に対応した考察 結論の導出	各指導教員（ゼミ担当教員）が、 学生の選択した研究内容や実施 状況に応じて、資料の収集方法や 研究実施方法、解析方法、結果の 解釈、文章表現などを定期的、ある いは必要に応じて集中的に指 導する。		自らの研究課題に 関する情報の収集に 努めるとともに、研 究計画と指導教員に よる指示に沿って、 積極的に研究を実行 して下さい。		ゼミ担当 教員		
		研究のまとめ 卒業論文の作成 発表準備							
		プレゼンテーションおよび 討論方法							
	5. 10. 26 (木) 1-5	卒業研究発表会 (ポスター発表)	ポスター発表を行う。				学科 全教員		
5. 10. 27 (金) 1-5	卒業研究発表会 (口述発表)	口述発表を行う。座長・計時係を 学生が担当する。							
教 科 書 参 考 図 書		研究テーマに関する資料、参考図書等は、指導教員と相談しながら選定します。							
履 修 上 の 注 意		測定機器は非常に高額で、他の学生や大学院生、教員も共同使用します。使用方法を遵守し、慎重 に取り扱ってください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		新しい知見に到達しようという意欲をもって取り組んでください。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名	学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅰ	理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	1	後期	1	非該当	否
授業概要	臨床実習Ⅰは臨床場面での初めての実習である。実習では多様化する理学療法を考慮し、各実習施設の目的や役割、組織等のもとより、そこで活躍する理学療法士の役割や業務内容を学習する。							
一般目標	・ 基本的理学療法の体験を通して、自己の理学療法感を育成できる。 ・ 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 ・ 理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動ができる。							
到達目標	1. 清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接することができる。 2. 実習施設等の規則や心得を遵守できる。 3. 与えられた課題を確実に遂行することができる。 4. 対象者、家族のニーズ・要望などに対し、自身の感情を制御して接することができる。 5. 指導者と十分なコミュニケーションを保って良好な関係を維持することができる。 6. 理学療法業務の概略が理解できる。 7. 病院・施設における理学療法部門の位置付けを把握できる。 8. 理学療法に対する意欲や向上心がみられる。 9. 守秘義務を果たし、プライバシーを守ることができる。 10. チーム医療の必要性を認識することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	実習後発表（30%）、課題レポート（20%）、臨床実習Ⅰ評価（50%）を基に総合的に判定します。							
授業計画								
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法			授業外学習など		担当
	6. 1.10（水）5 6. 1.11（木）5	実習前セミナー	臨床実習Ⅰの学習内容や諸手続きについて説明する。 臨床実習に臨む心構えについて、グループ討議を行なう。					赤塚、 他
	6. 2.12（月） ～ 6. 2.19（月）	各実習施設における 臨床実習Ⅰ	①病院・施設内の各部門を見学する。 ②理学療法の評価・治療を見学する。 ③日常業務に参加する。 ④カンファレンスや勉強会に参加する。			解剖学、生理学、 運動学、リハビリ テーション概論、 理学療法概論など 復習を必要とす る。		
	6. 2.20（火）2	実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。					赤塚、 他
教 科 書 参 考 図 書	臨床実習の手引き、臨床実習評価表							
履 修 上 の 注 意	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し真摯な態度で臨むこと。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	初めての臨床実習です。臨床実習施設では責任ある態度と言動に心がけること。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場での見学を行い、各施設の目的や役割、理学療法士の役割や業務内容を学ぶ科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学 年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床特論		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	前期	1	非該当	否
授業概要		1. 臨床実習に向け、これまでの学内学習を総合的・応用的に振り返り、補填しておくべき技術を教授する。 2. 臨床実習に向け、実習生としてふさわしいコミュニケーションを教授する。 3. 臨床実習で求められる記録法を教授する。 4. 理学療法士が行う動作分析方法を教授する。 5. 理学療法における介助方法を教授する。 6. 理学療法士が患者等に行う医療面接方法を教授する。							
一般目標		1. 臨床実習に臨む意欲を高め、必要な知識・技術の積み上げとブラッシュアップを行う。 2. 主体的・自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。 3. グループ学習の場において、適切な自己表現と葛藤の解消ができる。							
到達目標		臨床実習を行えるレベルで次のことができる 1. 臨床実習でお世話になる方々（患者等の対象者・指導者・他職種を含む実習施設職員）と適切にコミュニケーションできるような言動をとることができる。 2. 適切な記録ができる。 3. 観察による動作分析方法ができる。 4. 患者等に対して必要な介助ができる。 5. 患者等から直接、必要で十分な情報収集ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		一般目標と到達目標に関するレポート課題で評価する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			担当		
1	5. 4. 14 (金) 3	ガイダンス 統合と解釈の進め方		・説明（内容とスケジュール、成績評価方法、グループ学習方法） ・演習（統合と解釈）			丹野 室伏 工藤		
		知識と技術の総復習		・グループ学習			理学 療法士 教員		
2	5. 4. 14 (金) 4	記録法		・症例レポート、症例報告レジュメ、実習ノート、SOAP の記録方法			南澤		
3-5	5. 4. 21 (金) 3-5	リスクの気づきと配慮方法		・臨床場面で起こるインシデント・アクシデントリスクに気づき、配慮する方法			丹野 工藤		
6-8	5. 5. 12 (金) 3-5	介助法		・基本的なリフティングの方法			永瀬 赤塚 鈴木栄		
9-11	5. 6. 16 (金) 3-5	医療面接		・模擬患者との面接演習			井上 ¹⁾ 永瀬・他		
12-14	5. 6. 30 (金) 3-5	臨床実習におけるコミュニケーション		・臨床実習に向けた心構え ・実習における態度とコミュニケーション			丹野 工藤		
教 科 書 参 考 図 書		・指定なし。 ・講義時に資料を配布する。							
履 修 上 の 注 意		・この授業科目は、臨床実習Ⅲにおいてあらかじめ修得しておかなければならない科目に指定されています。 ・長期間の臨床実習前に、これまでの学内学習を補填して習得する知識や技術を確認します。これまでの学習をしっかりと復習し、繰り返し練習して臨んでください。 ・グループ学習では、グループメンバー同士お互いに高め合う気持ちをもって協力しあい、全員が達成感を得られるように進めてください。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		これまでの学習を統合し、単なる知識や技術ではなく、スキル（うまさ、巧みさ）の向上に取り組んでください。							
e - m a i l ・ 研 究 室 (連 絡 先)		丹野：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp 室伏：研究室 40 ymurofushi@yachts.ac.jp 工藤：理作共同研究室 dkudo@yachts.ac.jp 鈴木(克)：研究室 31 ksuzuki@yachts.ac.jp 加藤：研究室 36 hikato@yachts.ac.jp 南澤：研究室 18 tminamisawa@yachts.ac.jp 渡部：研究室 39 jwatanabe@yachts.ac.jp 赤塚：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 永瀬：研究室 23 tishiguri@yachts.ac.jp 鈴木(栄)：理作共同研究室 esuzuki@yachts.ac.jp							

1) 井上京子：元山形県立保健医療大学看護学科准教授

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅱ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	通年	4	非該当	否
授業概要		臨床実習Ⅱは、客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination：OSCE)、山形県立中央病院でのプレ実習と各実習施設での4週間の臨床実習から構成される。 OSCEでは、模擬理学療法場面での医療面接、検査・測定、報告の技術を試験する。 プレ実習では、理学療法場面の見学や体験を通し、各実習施設での実習へ向かうための事前学習を実践する。 各実習施設の実習では、理学療法を実施する上で必要な情報を収集した上で、対象者に検査・測定を適切に実施し、それらの内容の統合と解釈を行う。さらに、問題点の抽出と目標設定の方法について学習する。							
一般目標		・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法の方針を立てることができる。							
到達目標		1. 検査・測定や対象疾患に対する基本的な知識がある。 2. 検査項目・情報収集項目の抽出・取捨選択の理由を説明することができる。 3. 検査・測定を正確に実施することができる。 4. 対象者が抱える課題を抽出し、その抽出理由について説明することができる。 5. 短期ゴール、長期ゴールを設定することができる。 6. 基本的治療・指導項目を選択し、プログラムを立案できる。 7. 実施内容を診療記録に記載することができる。 8. 症例に関する口頭および文書による報告を適切に行うことができる。 9. 指導者の助言を仰ぎながら、他部門との情報交換ができる。 10. 指導者の助言を仰ぎながらリスクの配慮、管理ができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習前評価は OSCE、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅱの評定は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅱ評価をもとに総合的に判定する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当		
	5. 7. 3 (月) 3-4	臨床実習前セミナー	臨床実習Ⅱの学習内容や諸手続について説明する。				赤塚 他		
	5. 7. 13 (木) 2	OSCE ガイダンス	OSCE の説明				丹野・赤塚 他		
	5. 7. 26 (水) 1-5	OSCE	模擬患者を対象にした理学療法の検査・測定、評価と報告				理学療法士 教員		
	5. 7. 31 (月) 3-4	OSCE まとめ	OSCE の振り返り				丹野・赤塚 他		
	後日連絡	プレ実習①～⑤	山形県立中央病院において臨床の場を体験する。				赤塚・室伏 他		
	5. 9. 4 (月) ～ 5. 9. 29 (金)	各実習施設での臨床実習	① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 基本的な治療プログラムを立案する。 ⑦ 記録および報告を適切に行う。						
	5. 10. 2 (月) 1-3	実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。				赤塚 他		
		症例発表会	各実習施設で担当した症例について、症例発表会での報告とディスカッションを行う。				理学療法士 教員		
	5. 10. 3 (火) 2-5	実習後試験	各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションによる試験を行う。				理学療法士 教員		
教 参 考 文 献		臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料							
履 修 上 の 注 意		理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		臨床実習では言葉遣い、医学用語の理解、健康状態など配慮しなければならないことが多々あります。評価技術やトランスファーは正確にできるように十分に練習し、これまでに学習した知識や技術をしっかりと復習して臨んでください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、基本的な治療プログラムの立案まで行う科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」として扱います。							
e-mail・研究室 (連 絡 先)		赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅲ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	3	後期	8	該当	否
授業概要		臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を自律して行う。							
一般目標		・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法治療・指導計画の立案ができる。 ・理学療法治療・指導ができる。 ・再評価・最終評価を行なうことができる。							
到達目標		1. 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識がある。 2. 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 3. 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 4. 基本的な治療（技術）を実施できる。 5. 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。							
成績評価方針 評価方法 および基準		実習前評価は実習前試験、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅲの評価は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅲ評価をもとに総合的に判定する。							
授業計画									
回	日付		授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当	
	5. 10. 12（木）1-5		実習前試験	ペーパーペイシエント（紙上患者）による理学療法評価および理学療法治療計画立案と実地問題による試験を行う。				理学療法士教員	
			臨床実習前セミナー	臨床実習Ⅲの学習内容や諸手続について説明する。				赤塚 他	
	5. 10. 30（月） ～ 5. 12. 22（金）		各実習施設での臨床実習	① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 治療プログラムを立案する。 ⑦ 治療プログラムを実施する。 ⑧ 再評価を実施する。 ⑨ 症例レポートを作成する。					
	5. 12. 25（月）2-4		臨床実習後セミナー	レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。				赤塚 他	
			症例発表	ポスター発表				理学療法士教員	
	5. 12. 26（火）2-5		実習後試験	各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションと実地問題による試験を行う。				理学療法士教員	
教 科 書 参 考 図 書			臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料						
履 修 上 の 注 意			理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。						
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ			評価技術の練習や基本的な理学療法治療の復習を十分に行い、自信を持って臨床実習に臨んでください。臨床現場で多くの経験を積むことができるよう努力してください。 あらかじめ修得していなければならない一定の科目は以下のとおり 理学療法評価学Ⅱ、筋骨格系理学療法学Ⅱ、神経系理学療法学Ⅰ、神経系理学療法学Ⅱ、小児理学療法学Ⅱ、高齢期理学療法学、内科系理学療法学Ⅰ、内科系理学療法学Ⅱ、物理療法学、義肢装具学、生活支援系理学療法学Ⅱ、地域リハビリテーション学、理学療法研究法、臨床特論 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。						
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）			赤塚清矢：14 研究室 sakatsuka@yachts.ac.jp						

授 業 科 目 名		学 科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅳ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	4	前期	8	非該当	否
授業概要		臨床実習施設において、臨床実習指導者の適切な指導・監督のもと基本的な理学療法を自律して行う。							
一般目標		・理学療法の対象者に対して理学療法評価を行なうことができる。 ・対象者の身体状況に応じて、根拠に基づく目標設定ができる。 ・問題点抽出および目標設定から理学療法治療・指導計画の立案ができる。 ・理学療法治療・指導ができる。 ・再評価・最終評価を行なうことができる。							
到達目標		1. 治療プログラムに関する目的、技術等の基本的知識がある。 2. 問題点やゴールに対応した治療プログラムを立案することができる。 3. 治療におけるオリエンテーションと動機付けができる。 4. 基本的な治療（技術）を実施できる。 5. 症状や治療結果に合わせて、適切に治療プログラムを変更することができる。							
成績評価方針 評 価 方 法 および基準		実習前評価は実習前試験、実習後評価は症例報告と実習後試験で行う。 臨床実習Ⅳの評価は、セミナー、実習前評価、実習後評価および臨床実習Ⅳ評価をもとに総合的に判定する。							
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題		学習内容・学習方法			担当		
	5. 4. 26（水）1-4	実習前試験		ペーパーペイシェント（紙上患者）による理学療法評価および理学療法治療計画立案と実地問題による試験を行う。			理学療法士 教員		
	5. 5. 8（月）2	臨床実習前セミナー		臨床実習Ⅳの学習内容や諸手続について説明する。			赤塚 他		
	5. 5. 15（月） ～ 5. 7. 7（金）	各実習施設での臨床実習		① 症例に関する情報を収集する。 ② 検査・測定を行う。 ③ 一般情報、検査・測定結果を整理、統合する。 ④ 問題点を抽出する。 ⑤ 目標を設定する。 ⑥ 治療プログラムを立案する。 ⑦ 治療プログラムを実施する。 ⑧ 再評価を実施する。 ⑨ 症例レポートを作成する。					
	5. 7. 10（月）2	臨床実習後セミナー		レポートと評価書を提出する。 実習内容を説明し、自己評価による目標達成度や課題を発表する。			赤塚 他		
	5. 7. 10（月）3-4	症例発表		ポスター発表			理学療法士 教員		
	5. 7. 11（火）2-5	実習後試験		各実習施設で担当した症例についての実技プレゼンテーションと実地問題による試験を行う。			理学療法士 教員		
教 科 書 参 考 図 書		臨床実習の手引き、臨床実習評価表、配布資料							
履 修 上 の 注 意		理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。							
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ		評価技術の練習や基本的な理学療法治療の復習を十分に行い、自信を持って臨床実習に臨んでください。臨床現場で多くの経験を積むことができるよう努力してください。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、臨床実習Ⅲでの経験を踏まえ、臨床現場で担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムを立案の上、基本的な理学療法を実施する科目であり、高等教育の負担軽減制度の要件に定める「実務経験のある教員による科目」としています。							
e-mail・研究室 （ 連 絡 先 ）		赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp							

授 業 科 目 名		学科 (科目区分)	担 当 教 員 職・氏名	必修・選 択の別	学年	開講 時期	単位 数	先修条件 指定科目	科目等 履修生
臨床実習Ⅴ		理学療法学科 (専門科目)	理学療法学科 理学療法士教員	必修	4	前期	1	非該当	否
授業概要	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ。								
一般目標	・地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解する。 ・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法を理解する。 ・地域包括ケアシステムに関与する関連専門職種の役割を理解する。								
到達目標	1. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を説明することができる。 2. 通所リハビリテーションの理学療法を説明することができる。 3. 訪問リハビリテーションの理学療法を説明することができる。								
成績評価方針 評 価 方 法 および基準	臨床実習Ⅴの評定は、実習レポート（50%）およびプレゼンテーション（50%）にて判定する。								
授業計画									
回	日付	授業項目・学習課題	学習内容・学習方法				担当		
	5. 7. 19（水）1	オリエンテーション					丹野・赤塚		
	5. 7. 19（水）2-5	地域理学療法の実際	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の講義と演習				外部講師		
	5. 7. 17（月） ～ 5. 8. 4（金）	通所リハビリテーション提供 施設での実習	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにおける理学療法の見学実習						
	通所リハビリテーション：2日 訪問リハビリテーション：1日	訪問リハビリテーション提供 施設での実習							
	後日連絡	実習内容のまとめ	実習内容についてのディスカッション				丹野・赤塚		
	後日連絡	実習後報告会	実習内容のプレゼンテーション				理学療法士 教員		
教 参 考 文 献	資料は適宜、配布します。								
履 修 上 の 注 意	理学療法士になる立場であることを十分に自覚し、責任ある態度と言動に心がけること。 本科目は、実習指導者（実習施設に勤務する理学療法士）の指導の下、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの見学を行い、実践的な地域理学療法を学ぶ科目です。								
学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解することは重要です。								
e-mail・研究室 (連 絡 先)	赤塚清矢：研究室 14 sakatsuka@yachts.ac.jp 丹野克子：研究室 6 ktanno@yachts.ac.jp								